Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
J003	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	10.その他	問3-3でも記したように、世界がまとまってはじめて地球環境が解決し始めるのであって、昨今の状況では悲しいことにスタート地点にも立っていないように思える。
J004	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	70代以上	8.ライフスタイル	この問題は、我々の社会システム、経済システム、ライフスタイルを変えないと改善には限界があり、目先の対応では達成が困難と思う。
J006	橋本　孝明	アジア	日本	NGO/NPO	70代以上	4.生物化学フロー(環境汚染)	人間生活が自然界に大きな悪影響を及ぼしており、人間生活に制限をかけることも必要になるのではないか。特に、従来型の経済成長という概念を捨て去るべきであろう。
J008	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	気候変動は、いろいろな「かたち」で毎日出現している。これらの要因は結局、大気中の二酸化炭素の増加が主たるものだが、われわれの日常生活で少しでも軽減できるよう、具体的な形で示す努力をもっと盛んにしてほしい。
J011	田口　正己	アジア	日本	その他	70代以上		地球温暖化や異常気象化は依然進行しているが、経済界の対応は基本的に鈍い。現在示されているような施策や対応では、改善に向かうと評価出来る状況にははるかに程遠く、残念である。
J012	勝田　悟	アジア	日本	大学・研究機関	60代	5.水資源	・日本で水資源が問題になると思っている人が少ない。 ・仮想水についてもよく考えるべきである。
J013	近藤　三雄	アジア	日本	その他	70代以上	10.その他	コロナ禍、ロシアによるウクライナへの侵略戦争（核施設への攻撃、核兵器の使用の現実的可能性等）の未曾有の厄介を受け、地球環境問題全般に関して抜本的見直しが必要と考えます。
J015	[-]	アジア	日本	その他	70代以上		侵略が進行中、まず目の前の平和の維持、エネルギー問題を真剣に考えないとSDGsどころではなくなる。
J017	白岩　英樹	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	1-5, 7-9における環境の悪化、更には6における経済格差の拡大は、過去、現在、未来の自他に対する「暴力」であることを、個人、公共、国家のレベルで認識を深め合い、法的規則を強化することが必須だと考えます。
J018	原田　博之	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 5.水資源 7.食糧 10.その他	海に囲まれた日本は、平均気温（CO2濃度上昇に戻づく）の上昇、海水温の上昇等で、突発的な気象変化、強烈な台風の頻発等で災害被害が多発、更に食料自給率が低く、地震災害が多く、極めて防災上問題が多い。これらに有効な技術対策が急務である。
J019	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 6.人口 7.食糧	・気候変動対策と生物多様性の保存の両立をめざさないといけない。 ・食糧生産と人口問題はもちろん連動しており、国際的な協調が重要。
J020	前畑　進	アジア	日本	企業	70代以上	1.気候変動	四季の美しい日本であるが、春、秋が非常に短い、夏は酷暑が冬は極寒が長い。「エネルギー節約」の国民的コンセンサスを是非再度盛り上げたいと思います。
J021	町田　光	アジア	日本	その他	70代以上		2050年迄に世界で化石燃料を大巾に削減出来るのか、現状ではかなり困難（先進国は50%以上80%程度まで削減出来るのか）、ライフスタイルの大幅な変更（エネルギー使用量の削減、プラスチックの使用廃止、食品ロスの削減、リサイクルの徹底等）する必要があると思われます。
J024	田中　勝	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動	年間8000万人も人口増で、CO2排出ゼロは無理。自然の変動には適応するのが賢明。
J025	[-]	アジア	日本	その他	70代以上		小学生や中学生等の若者に、地球環境の大切さを十分に教育することの大切さを痛感しています。
J032	西川　智	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動	地球の長い歴史を見れば、気候は必ず変動する。一定に固定できるはずはないので、気温変化を止めようとするのは非現実的。むしろ、どのようにadaptするかが大事である。大事なのは、水資源や食料といった観点での人間の対応である。
J033	杉山　民二	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 7.食糧	ロシアのウクライナ侵攻、さらに長期化は、放射能汚染のリスクを高め、地球環境に深刻な問題（食糧、水資源を含めて）を発生させると考えられる。
J034	早川　洋行	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境	戦争の際に、原発がいかに危険な存在であるか、ウクライナ問題が明らかにしている。脱原発は必要不可欠である。
J035	[-]	アジア	日本	中央政府	50代	4.生物化学フロー(環境汚染)	窒素やリンによる富栄養化は、日本では世界の一般的な状況と大きく異なっています。循環の仕方を改めていく必要があることはかわりませんが、そのアプローチは違うものを考える必要があります。
J039	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	最近の国際情勢を踏まえると、気候変動などの地球環境問題で、地球が危機に直面するのか、国際紛争で危機を迎えるのか懸念される。紛争を止めて、地球環境問題に各国が真剣に向き合う流れをつくる必要がある。
J040	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	8.ライフスタイル	先進国でのライフスタイル変更は必須で、途上国にどれだけ協力してもらえるかが人類の生存の分かれ目になるのではないか。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
J041	[-]	アジア	日本	その他	60代		地球全体での人口増加に対する対策がない限り、他の対策が進んでもやがて効果が無くなる。にもかかわらずSDGsには人口増加（抑制）に関する直接的項目がない。何故？
J042	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	60代		コロナ禍やウクライナ情勢は全く予測不能な変動因子を世界に投げ込んだ。今までの社会の常識が互解しつつある。環境問題のベースラインがわからなくなった。
J044	大森　正之	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境 10.その他	核戦争の可能性が生じた現在、核汚染の問題を問う内容になっていないと感じました。
J050	山田　和司	アジア	日本	その他	70代以上	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	私達のライフスタイルを、文明の追求から文化を重視する方向に転換し、自然との交感能力を高めることが大切である。
J052	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代		ロシアとウクライナの戦闘状態が長期化し、食料やエネルギーの流通に影響が出だしている。これらを引き金として、地球環境問題は悪化していくと思われる。逆に、これらを契機として技術革新を望みたい。
J053	金谷　有剛	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動	IPCC AR6に携わった者として、知見をわかりやすく社会に広めることを目指したい。特に、若年層への浸透が必要（日本は遅れている）。
J054	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源 7.食糧	生物圏保全性、食糧、水資源などは、地球規模の気候と関連が深いので（太陽系の状況の変化などと大きく係わっているので）、本質的な取り組み（実質的な取り組み）は困難であるように思います。
J057	清水　文雄	アジア	日本	ジャーナリズム	70代以上	1.気候変動	ウクライナ侵略で気候変動対策の優先度が実質的に大きく後退することを懸念する。
J058	海老瀬　潜一	アジア	日本	その他	70代以上	7.食糧 9.社会、経済と環境	ロシアのウクライナ侵攻が、世界のエネルギー政策の変更・後退や食糧危機に影響を及ぼすと思う。
J059	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 5.水資源 7.食糧 9.社会、経済と環境	作物生産力の高い地域は中緯度地域に分布しているが、温暖化によって生産力の低い低緯度地域での作物の生産は、世界人口を養うだけの食糧生産量の維持には問題が大きい。
J060	西田　益温	アジア	日本	その他	70代以上	4.生物化学フロー(環境汚染) 6.人口 9.社会、経済と環境 10.その他	諸情報の客観的評価とその伝達方法が重要である。放射能に対する（関する）情報が必要になってくると考える。
J062	山本　晴稔	アジア	日本	その他	70代以上	6.人口	私が小学校だった70年前は、世界の人口は約16億人だった。現在の人口は80億人に迫り、70年間でおよそ5倍になっている。資源の枯渇は差し迫っている。
J064	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	3.陸域系の変化(土地利用)	森林などの所有権、所有エリアを明確にすることを国や地方公共団体が責任をもって確実に実施すべきである。国外からの買い付け？などの実体がないような所有者（団体）が森林を所有することを意志をもって排除すべきである。
J066	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代		私は、幼少の頃、冬の暖房は「ひばち」や「レンタンこたつ」でした。現在は生活水準が上がり過ぎ、１年中「エアコン」があたりまえ。本当に地球温暖化防止のための気候変動対策や生物圏保全に人々の意識が変えられますか？無理です。微力ながら、省エネアドバイザーやエコオフィスアドバイザーとして精一杯の活動を継続しています。
J067	澤津　直也	アジア	日本	NGO/NPO	40代	6.人口	人口爆発よりもむしろ人口減少による国力低下が心配。
J068	[-]	アジア	日本	その他	60代	10.その他	今般のウクライナ紛争において、ロシアが核使用を暗示する行為を見せたことや北朝鮮の行為などを見ていると、将来誤って核使用が起こり、それによる壊滅的な地球環境破壊が有り得ないとは言えなくなった気がします。機能しない国際連合等、国際的組織の抜本的見直しが急務です。
J069	大久保　忠旦	アジア	日本	その他	70代以上		ウクライナへのロシアプーチン政権による侵略に伴い、エネルギー危機だとして原発の（再稼働はともかく）新設とか核共有などを（自民党安倍派の本音）主張する動きが出ている。日本海沿岸に原発を並べている現状のもと、反撃能力の武装を主張するなどのナンセンスをメディアが批判できない現状を憂える。
J075	[-]	アジア	日本	地方自治体	20代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球温暖化の影響は、一般の人々でも感じられるようになりつつある。地球温暖化対策を実施していくにあたって、今、その場所にある資源をどう循環利用していくかが重要であり、その仕組み作りと人々の生活への定着が求められていると感じる。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
R672	山口　誠之	アジア	マレーシア	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	すべての項目をチェックしたのは、それらが個々に独立した変数ではないからである。もし地球環境を考える上で、あえて、最も大きな問題を指摘するとすれば、ヒトの個体数（人口）及びヒトの行動（ライフスタイル）であろう。人口さえ大きく減らすことができれば、上記の問題はほぼ全て、何もせずとも、解決するか、もしくは解決が今より遥かに容易になるであろう。目下８０億程度地球上に棲息するヒトを１０億程度にまで何らかの方法で減らすことができれば、地球環境は大きく回復するであろう。日本に当てはめれば、目下の１億２０００万人ほどの人口を１５００万人程度まで、何らかの方法で減らす、ということになる。問題は、そのような意思決定が、社会的にも、政治的にも、経済的にも大きな支持を得られる可能性は極めて低い、ということだ。人口の大きな減少及びライフスタイルの大きな変革無くして、他に何をしようとも、現在我々が直面している地球環境問題を解決することは非常に難しいであろう。逆に人口問題とライフスタイルの問題さえ解決できれば、他には大して何もしなくとも、目下我々が直面している地球環境問題はかなり容易に解決できよう。
W002	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染)	世界の原生林の保護がCO2削減にも水資源の確保にも役立つと考える。
W004	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	2.生物圏保全性(生物多様性)	生物多様性に対する認知度や問題意識の向上があまり進んでおらず，根本的な問題解決には至っていない．サステナビリティの条件としての生物多様性に対する理解が乏しいこと，気候変動や水資源，食料の問題などとの関連性を見出しにくいことや，そのための情報に接する機会が少ないことが一因となっているように思われる．結果としての生物多様性の受け止めでは，その減少に歯止めをかけることは難しく，より戦略的な教育や啓発が必要である．気候変動対策との関係を明確にし，生物多様性の確保のためのリソースの分配が必要である．
W005	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	Z世代やミレニアル世代が消費の主流を占めているが、企業に対する共感や信頼の水準が低い。上記の1や4を中心に若い世代から信頼と共感を得るため、日本企業は経営構造の変革に本気で取り組む必要がある。
W006	[-]	アジア	日本	地方自治体	60代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 6.人口	気候変化と環境汚染、コロナ禍での隔離で人間の生殖能力が低下し、特に先進国での人口が減少するという複合的な変化を注視したい。
W008	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	脱炭素社会は、お題目としては魅力的だが，現実的にはより排出の低い資源や技術を確実に利用していく姿勢が大事で、イメージだけでゼロエミッションは実現できないし、かえって排出量を増やしてしまいかねないことを危惧する。
W009	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動	次々と地球環境悪化の事実が明らかになり，推定される原因も変化していく．解明されたとされていることが変わっていき，実はまだよくわかっていないことがますます多くなっていく．場当たり的な対策を打つより，抜本的な対策を打てるよう，研究と実践を続けないといけない．
W010	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	10.その他	曲がりなりにも大きな戦争は抑え込んできたし、抑えられるものと思ってきたのが、ウクライナへのロシア侵略で崩れてしまった。使えば歴史が終わると言われてきた核兵器までが持ち出され、ショックを受けている。また、戦争が最大の環境破壊であることもあらためてわかった。
W013	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動	未だ日本では、エネルギー利用における明確なコンセンサスがなく、どのように温暖化を達成していくのかの道筋が不透明である。
W016	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染)	地球環境問題は項目的には、オゾン層の破壊、地球温暖化、酸性雨、等々、様々に分かれて表現されているが、根源的原因は人類の過剰な経済活動が環境に過剰な負荷をかけているといい一点に集約される。従って、地球環境問題を解決するのではなく、地球観光問題が生じない社会システムに移行するという方針変換が明確にされない限り解決には至らない。逆に、環境問題が生じない持続可能な社会、つまり循環型社会に移行できれば環境問題のない安心、安全でかつ精神的にも豊かな生活を送ることができる。このたまの要素技術や基礎的考え方等はほぼ出揃っているので、すべてを統合して、俯瞰的に実行するという政策がとられればかなり短期間のうちに変換できると思われる。従って、本質的な考え方をし根源的に社会システムを移行することの重要性に気付くことができるか否かにかかって言えると言える。
W017	上野　健一	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9.社会、経済と環境	日本では生活の質や幸福度を向上させるための政策に欠け、全球で取り組む必要のある地球環境の本来の意味が社会に理解されていないように思います。
W018	嘉田　良平	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境	ウクライナ問題で象徴されるように、地球全体の安全・安心が大きく揺らいでいる。このことが、環境問題に対する意識をますます遠ざけているように感じる。
W021	田中　廣滋	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	コロナウィルスの感染拡大やロシアによるウクライナへの侵攻など世界的な課題への緊急の政策課題が先行して、政府の財政的な余裕がなくなってくるので、豊富な民間資金が気候変動問題振り向けられる環境整備がこれから重要になる。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W022	那須　清吾	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境	人間は工業化社会により豊かになった様であるが、環境に多大な影響を与えている。これからその結果を受けざるを得ない時代が来る。その中で、経済や社会、生活様式に至る全ての分野で環境との共存共益を模索する政策と意識転換が求められており、それ無しには地球環境も経済社会も持続することが困難な時代が来ることを警告したい。 自然に学び、自然を守り、自然と共存する哲学を、ライフスタイル、経済活動、技術革新のあらゆる分野で実践することが重要な時代になってきている。
W023	横堀　惠一	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	気候変動問題は、長期的な努力が必要であり、短兵急な対応では、息切れするように思います。早急な施策の選択ではなく、熟慮を重ねた対応が必要と思います。また、制度変更については、異論のある人々の間での意見交換を通じ、共通認識を広げていく努力が必要と思います。このためには、非難の応酬ではなく、相互理解の努力が必要と感じます。
W025	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 6.人口 7.食糧	効率性志向の近代文明化による時間的・空間的な格差拡大とそれによる地球の強靭性の弱化、これらが地球温暖化、人口爆発とその裏腹である食糧危機をもたらし現象化しているのであり、これらのじわじわとした進行がいま、大きな歪となって自らの力によっては回復が難しい局面に入りつつあると認識している。いま、コロナ感染拡大とロシアのウクライナ侵略の動きに目を奪われがちであるが、地球温暖化と人口爆発、食糧危機などの問題などの根本的な問題への対応がなされない限り、諸問題の抜本的な解決にはつながらないと考える。
W026	[-]	アジア	日本	企業	70代以上	5.水資源 6.人口 7.食糧	限られた地球資源と人口増加のアンバランスの問題が増大するだろう。
W027	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動	気候変動とエネルギーバランスを調和させることは難しいと考える。
W028	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	5.水資源 7.食糧	食料輸入国である日本は、水資源を含め、生産国の環境を搾取しているという意識を持つべきだと考えます。
W030	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	60代	10.その他	新型コロナウィルスのまん延により、世界の脆弱さが露呈している。ウクライナへのロシアの侵略戦争により、世界を揺るがす事態に至っている。地球環境どころではない、膨大な消費と破壊が続いている。色んな意味で後退を強いられ、再構築の機会を待たなければならない時機にあると思う。このままでは次の世代に多くの課題を残してしまうことになる。
W031	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	10.その他	戦争は最大の地球環境諸問題の要因のひとつです。 残念ながら、今年は大国どうしの争いによって、地球環境諸問題に対して大きな危機を迎えてしまいました。
W032	前田　健一	アジア	日本	企業	60代	6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	再生エネルギーが、直接的なGHGの削減につなげる試みとして語られるが、昨今、発電所が自身がダウンし、広域送電網で、電力をカバーする発想が成り立たず、揚水発電でしのいだということがあった。 日本は世界でもトップの揚水発電能力を有する。しかしその稼働は、わずか数％である。 もともと、全体の需給バランスの中で、揚水発電所の役割を位置づけたわけではなかったためである。 英国では、ウェールズに大型の様子発電の設備があり、こうしたギャップをタイムリーに救うシステムが機能している。 ドイツにおいても、そうした設計がなされ、再生エネルギーの事前現象の変動によるリスクの弁として、揚水発電がスタンバイしている。真似をすることがすべてではない、日本においては、エネルギーの地産地消を徹底的に追求し、地方創生の一端で地方の一次二次産業の担い手が、再生エネとビジネスの取組を行い、世界にモデルを示すべきではないか。国力は、いつまでも、産業主導の経済では持たない。
W036	西岡　秀三	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動	コロナ禍からの経済回復のための脱炭素に寄与しない投資や、ウクライナ戦争などによる化石燃料利用拡大、等、それでなくとも遅れ気味の各国気候変動対策の遅延が懸念される。
W040	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動	ドイツ連邦経済・気候保護省は、ウクライナ危機を視野に、ロシアからのエネルギー輸入依存度を下げるためにも、再生可能エネルギーの拡大を推進することが重要であるとの立場を表明し、先月3月4日に、「再生可能エネルギー法」の改正案を公開し（EEG2023）2035年にはドイツ国内の電力供給をほぼ完全に再生可能エネルギーによって賄うことを目指す方針を示しております。方や、すでにゼロカーボン宣言をしている割に、日本は、何かと対応が後手後手で終始しており、内外から「気候危機対策が3周遅れだ」との厳しい批判を受けております。気候危機をはじめとするSDGs達成のためには、学術界、ビジネス界、政策立案者、市民社会が、垣根を越えてトランスディシプリナリー(超学際的)な方法で緊密に連携する必要があります。その高き理念と推進力が、残念ながら、日本は漸弱で後退している気がしてなりません。
W041	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	4.生物化学フロー(環境汚染)	先天異常の件数の増加傾向が止まっておらず、益々悪化している状況である。エコチル調査の知見も得られ始めているが、少なくとも現状維持か低減する状況になる必要があるがその目途が立っていない。
W042	戸田　浩人	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境	平和の維持が危機にさらされ、経済も環境政策も大きく後退し、地球環境問題を解決するどころか促進されているような状況となっています。平和の維持、貧困や飢餓をなくし、平等な社会に向かっているという希望がないため、世界は明日の地球環境のことも考えられなくなっていると思います。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W043	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動	地球環境問題については、基本的な科学的仮説についての検証が不十分なまま、一部のメディアの宣伝によって適切でないかも知れない解決策が推進される傾向があることに、多くの人が気づき始めていると考えます。「基本的な科学的仮説についての検証」をおろそかにし続けるならば、多くの人がそっぽを向き、何十年もの時間を無駄にすることになるでしょう。 検証が不十分にしかなされていない仮説の例は、 ・地球温暖化（または気候変動）と人間活動に起因するCO2の排出量の間に因果関係が存在すること ・マイクロプラスチックが海水中で分解されずに残り、海生生物に取り込まれてそのまま体内に維持されること などです。
W044	永野　博	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境	ロシアによるウクライナ侵攻であらゆる地球環境の改善にかかわる目標の実現が後退することは目に見えている。偉大なロシアの衰退を止めたいという考えから、このような暴挙を想像する人もいたようだが、まさか21世紀の今頃になって、国連安全保障理事会の常任理事国がこのような平和の構築と真反対の行動を起こすとは考えてもみなかった。これにより、パリ協定どころではなく、石炭をはじめとする環境汚染物質の利用が増大せざるを得なくなり、今後、当面の間は残念ながら私たちの期待とは逆方向への動きが起こらざるを得ない状況になっているのは、ものすごく残念。これによって、地球に人類が生存できる期間は短くなるおそれがある。あらゆる外交手段を通じて、このような状態の進展をストップしてほしい。
W045	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境	SDGsの17の目標については、特定の国、地域で考えると、その現状と達成の可能性についてはデコボコがあるが、地球全体で見ると（問3-1,3-2)では17の目標いずれについてもかなり厳しいと見ている。20世紀から21世紀に入り、人は豊な暮らし、生活をおくれるものと思っていたが、自分の都合だけを考え、地球全体としてどうしなければいけないという考え、行動が、全体論としては了解するが個別事案としては目標に向かった一致協力できない事例が年ごとに大きくなってきていることを心配している。上記9項目、いずれも極めて重要なものではあるが、まずは9が世界として合意できない限り、良い方向には進まないと心配している。大学では自分の専門に関連させて事例を紹介し、学生に考えさせているが、私が大学で学生に教え、考えさせているような事を、分野の異なる専門家が一般人を対象に実施し、日本国民として地球の現状と課題をしっかり認識して一つ一つ行動に移すことにつながるような地道な取り組みが今必要ではないかと考える。そのような取り組みを産業界が旗を振って実現していただきたいと期待している。
W046	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	10.その他	都市伝説であることを前提として述べると、ビルゲイツは世界の人口を5億人まで減らすことを公言しているが、冗談ではなく、コロナによりまったくその通りに進行しているとしか思えない。ならば、地球環境問題も何の意味も持たなくなる。
W049	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境	相変わらず「儲けてなんぼ」の政策、施策、企業活動から離れられず、環境問題は二の次である。
W050	前　章裕	アジア	日本	NGO/NPO	60代	6.人口	人口増加が根本的な原因だと思うので、これを抑制する手段をとることが最重要。
W052	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	9.社会、経済と環境	ロシアの軍事侵攻で、世界が一変し、SDGsどころでは、地球環境問題どころではなくなっている感があります。
W053	西　史郎	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	コロナ禍でリモートワークが普及し、働き方が変わりつつある。人流が少なくなり通勤時間帯の電車や新幹線などの本数が減少して、これまで削減ポテンシャルとして提示していた公共交通機関による移動の削減が実質効果になった。さらにリモートワークが進みワークライフバランスがとれて快適なオフィス、充実したパーソナルライフが実現する社会を期待している。
W054	井手　慎司	アジア	日本	大学・研究機関	60代	10.その他	SDGsの枠組み（17ゴールの設定）が従来の地球環境問題の分類分けと微妙に異なっていることで，特に今回のアンケートでは前者は前者，後者は後者と割り切って考えないと，それぞれに関連する問に答えられなかったよう思う．
W056	松永　浩司	アジア	日本	企業	50代	6.人口	人口の減少は、日本国にとって、最大かつ喫緊の課題だと考えます。
W060	中尾　淳	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 5.水資源	地球環境問題の解決を個人レベルの意識改善に委ねるのは限界があり，国際的な取り決めに基づく各国での法整備が重要だと考えます。
W061	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 5.水資源	環境問題に対する理解と危機感が日本全体になく、企業等で利益になるものばかりが取り扱われている。しかし、基盤研究としての環境問題はおざなりにされていると思います。
W063	山田　宏之	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動	気候変動は様々な形で現れるものであり、過去から常に変動し続けてきた。どんな気候変動にもメリットとデメリットがあり、これを「気温上昇」、「気温上昇に伴うデメリット」にばかり偏って関心を向けるのは危険である。
W065	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	30代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	パリ協定やカーボンニュートラル宣言など、鍵になるイベントの前後は盛り上がるが、時間が経ったり政権が交代すると政治も一般市民も関心が低くなり、イベントの前の状態に戻る印象。
W067	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動	地球温暖化に関する問題は、単に再生可能エネルギーにすべて置き換えれば済む話ではなく、ライフスタイルの転換が必要な大きな問題と捉えるべきである。我々がより危機感を持ってこの課題に取り込むにはどうしたら良いか、早急に考える必要があろう。
W068	堤　裕昭	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動	一刻も早く、化石燃料に依存しないエネルギー供給と使用の体制を全世界的に構築する必要がある。そうしないと、地球の環境や生態系が人間が住めないレベルまで破壊されてしまう。
W069	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動	地球温暖化問題の解決には住民の理解が必要。
W070	坪内　彰	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境	SDGsには「働きがいも経済成長も」とあって、すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進するとうたわれている。 一方、我が国では、環境と経済の好循環が唱えられているが、働きがいと経済成長、環境と経済は、真に両立しうるのか疑問がぬぐえない。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W071	渡邊　泉	アジア	日本	大学・研究機関	50代	7.食糧	気候変動による自然災害の巨大化に加え、コロナ禍による社会システムの綻び（去年のイギリスにおけるガソリン危機など）、一気に生じたロシア側世界との断絶で、地球規模での「向上」が瞬く間に遠ざかってしまった2022年の春です。こんなに著しく、また劇的に世界が変わったのに、日本の社会はまだ太平の眠りに就いているかの様な雰囲気さえあります。とくにマスコミは地球環境、日本の中では格差と共に進行している貧困を、もっと取り上げて欲しいと思います。強く求められる、社会全体での意識の共有が、強く強く求められます。そうして喫緊に、他者に対する思いやりや、痛みへの想像を社会全体で取り戻す必要があるでしょう。あまりに、現在起きている異常と、それに対する危機感が日本の社会に浸透していない、その状況こそ、本当に危険だと感じます。 とくに食糧を「変化を示す項目」に取り上げましたが、いのちに直結する巨大なモチベーションともなりうる食糧は一つの象徴で、連動してエネルギー、資源、そして二次的に気候変動や生物多様性の減少といった重大な問題も関係するでしょう。本当に、1年で加速度を上げ、危機は高まっています。その進行は想像を絶しました。
W077	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	9.社会、経済と環境	環境破壊の原動力である現状の社会・経済の在り方に変化が現れているかどうかを、本アンケートで（可能なら）深掘りしてほしいです。
W078	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	8.ライフスタイル	ライフスタイルというより，人々の考え方なのだろうと思いますが，それが一番の「キモ」のように思いますので，選択しました。個人的には，それを裏付けるための，支えるための政策や施策が必要（重要）ではないかと思いますが，如何でしょうか。
W081	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	全てについて言えることかと思いますが、社会に対する問題の啓蒙が必要かと思います。また、専門家もおのおのの専門から環境問題を見ていますので、同じ用語を使って会話をしているようで、背景知識により齟齬がある様に感じています。私もそうですが、一つの分野からの視点は、必ずしも正しくない事を念頭に置いた施策が提言が必要だと思いますが、この慎重さが一般の人への問題の理解の障害になっている気がします。
W083	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	パリ協定以降の国際的な進展を踏まえて2030年あるいは2050年を考えると、気候変動対策はある程度進むことが期待される。重要な問題は、気候変動対策がエネルギーや産業技術対策にとどまることなく、経済成長の果実が多くの人にいきわたり、経済格差や不平等、不公正のない社会の形成に結びつくような包括的な解決につながることである。問３で達成が難しい課題に、人や国の間の不公正やジェンダー平等を挙げたが、これらの克服には、社会経済システムの転換と人々の意識の転換の両方が必要になる。地球規模の課題の解決のために、環境と社会、経済の課題の統合的な解決をいかに達成するかを一層考えなければならない。
W085	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用)	ある中学生～大学生向けのアンケートで、最も関心が高いこととして気候変動を挙げていてびっくりした。彼らの意識の高さとは逆に、経済界も施策も（いちおう何かやってるが）危機意識が薄いと感じる。
W086	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	10.その他	世界の多くの国々でSDGsという言葉が提唱されるようになったことで，世界平均でみて，地球環境問題への関心，意識，改善意欲は間違いなく高まったと言えると思います。しかし，では2030年に実際に誰しもが「達成された」と思えるレベルまでに到達する項目があるかと言えば，私は恐らく1つも無く，いずれまたSDGsに続く新しい目標が掲げられてくことになるに過ぎないと予想しています。 もし，2030年にこれらの問題の1つでも本当に達成できるのであれば，ロシアとウクライナの対立などとっくに解決されていると思います。しかし，現実には，たくさんの民間人が殺されていることがわかっていても，結局誰もそれを止めることができていません。地球環境問題も同様で，どこにどういう問題があるかは，多くの人たちは気付いていても，それを実際に解決することが難しいと言うことも多くの人が既に理解できていると思います。そして，そのことを本当に理解していて，本気で何とかしたいと考えている人ほど，SDGsという目標を具体的な達成年度まで掲げることに無理があると考え，また，そういう目標を掲げる前に自分たちでできることがあれば，それを少しでも前に進めようとするのではないかと思います。
W087	大原　利眞	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	気候変動問題の解決に向けた取組が大きなムーブメントにならないのは、小手先の対応をすればなんとかなるだろう、という意識が変わらないことによるところが大きい。社会経済システムの変革が必要であるにもかかわらず、戦争によって激甚な環境破壊を引き起こしているような状況である。地球環境危機は減速せず、逆に加速していると言えるかもしれない。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W088	堤　純一郎	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 9.社会、経済と環境	気候変動は最大の課題となっているが、その影響を正確に評価していないので、認識がまだ不十分と感じる。気候変動につながる人工的な原因のトップであるエネルギーの問題も同様に一般の認識がまだ不十分と感じる。ロシアの暴挙の問題で石油や天然ガス資源が話題になっているが、今こそチャンスととらえて、ロシアのエネルギーへの依存を断ち切る覚悟が必要。そのための社会体制や技術開発を先行すべき。もう一つ大きな問題は、生物多様性に関わる海洋プラスチックの話であるが、新しい法律ができて良い方向へ向かうことを期待している。しかし、これは製造責任ではなく、廃棄物の適正処理を実効的に進めることが重要。循環型社会の基本として、廃棄物の処理を適正に行う方針は間違っていないが、マテリアルリサイクルに注力しないで、サーマルリサイクルをもっと活用し、廃棄物処理とエネルギー供給を両面から進めることが理想的。
W089	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球温暖化の原因は、温室効果ガスの増加で特に二酸化炭素がその中心になっている。そこで脱炭素というキャッチフレーズがまかり通っている。しかし、地球上での二酸化炭素の排出は、97%が生物圏で3%が人為的な排出である。この３%の内の中で二酸化炭素の排出抑制をしたからといって気候変動や地球温暖化に影響があるとは思えない。また、二酸化炭素は植物の生育（光合成）に不可欠である。実際にビニールハウスでの野菜の生産では二酸化炭素を吹き込んでいる。つまり、もし二酸化炭素濃度が減少すれば、食糧の生産性が低下し、食糧危機になる。生物の主要元素は、炭素であり、脱炭素などというキャッチフレーズは、生物や食糧生産からみれば、真逆である。科学的に正しい評価を行わず、政治的なプロパガンダがまかり通っている。科学的に正しい見方をして、対策を打たないとコストや労力は徒労に終わる。
W090	外川　健一	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9.社会、経済と環境	コロナワクチン接種の南北格差からみても、基本は南北問題だと思っています。そしてジェンダー、教育問題でしょうか。 自国第一主義がトランプ政権、ブレグジット以降の西欧の潮流であり、ムスリムやロシア、中国などへの理解がますます重要だと思います。
W091	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源	地球環境問題は、全球スケールの話であり、長い時間をかけて起きる現象と突然の変化を伴う現象が混在しているため、人生の中で危機に直面するというリアリティーを本当の意味で突きつけられていないため、個々人が自分のこととして捉えにくい。この意識の転換をいかに行うかが鍵だと考えられる。
W093	可知　直毅	アジア	日本	大学・研究機関	60代	2.生物圏保全性(生物多様性)	地球環境問題を改善するためには、人を含む全ての生物の生存基盤となってる生物圏の持続的な保全が必須と思います。気候変動は喫緊の地球環境問題ですが、生物多様性の保全と瀬セットで対策する必要があると考えます。
W094	[-]	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	脱炭素達成のお題目で原発再稼働等を推進していくことについては慎重な対応が必要だと思います。
W096	楠田　哲也	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	多くの対策が現時点を起点とした発想で発想されています。世代間倫理を認めるとするならば、経済システムに対する考え方や法制度等を国際社会にあることを前提に改革する必要があります。また、世界的な意思決定システムを熟慮ある民主主義を基底にして創り上げることが欠かせません。
W097	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	6.人口 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	エネルギー分野でみると，化石燃料由来のエネルギーから再生可能エネルギーへの転換をすすめるべきです．生活側，産業側から見ればこれは「電化」と理解してよいでしょう．しかし一方で電源の再生可能エネルギーへの依存度はいぜん低く，「電化」への努力が低炭素化という結果に結びついていないように感じます．電源構成という巨大なシステム再構築に向けて明確なロードマップの提示・承認と，それに基づく有効な投資・開発が必要だと思います．日本は高齢社会です．また女性の社会参加が立ち遅れた国でもあります．高齢者，女性が意識を持ち，活動できる，具体的な場の創設が求められているように思います．
W098	中山　由美	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	1.気候変動	北極や南極で現れている環境の変化、海の変化、遠い国々での自然災害など、世界各地で起きている気候変動の事象に、危機感をもつ人がいまだ少ない。はるか遠くで起きて、自分たちの生活からかけ離れて、関係がないと思いがち。しかしながら、先進国が大量にはきだした二酸化炭素や環境汚染物質が、地球環境と気候に変化をもたらしつつあることは、目を背けてはいけない事実だ。SDGsは教育現場でもとりあげられるようになり、子どもや若い世代では意識が高まりつつあるのに、一方で大人社会・政治も”経済優先”が根底にあり、なかなか意識を変えられず、表面的な取り組みにしか見えない。平和と経済的な安定、快適な暮らしや自由が享受された社会にまで成熟しないと、地球環境問題に一致団結して向き合うことはとても難しい。ただそんな状況を待っていれば、手遅れになる。次の世代に負の遺産を残さないよう、自分たちが担うべき”責任”を考える必要があると思う。
W099	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	地球環境問題の中で、気候変動と生物多様性は危機的状況にあると考える。これはプラネタリー・バウンダリーからも同様の見解がなされている。日本国内では、集中豪雨や大型台風による自然災害も毎年のように発生しており、気候変動との関連性も指摘されている。また、日本は地理的に地震や火山噴火などの自然災害も発生しやすいので、こうした事例についても検討していく必要があると考える。
W101	川島　洋一	アジア	日本	大学・研究機関	50代	10.その他	ロシアの侵略と横暴、新型コロナウイルスによるパンデミックという想定外の事態は、SDGsが設定するゴールよりも数段高い危機的状況であり、一刻も早い解決が求められる。地球環境の問題は、平和な世界があってはじめて成り立つものであり、平和秩序維持の重要性にあらためて気づかされた。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W102	永津　龍一	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染)	人類の持続可能な社会の実現に向けて、引き続き、気候変動問題やマイクロプラスチックによる環境汚染への取組が最も重大かつ緊急な課題となっていると思われる。しかし、今回は大国ロシアによるウクライナ侵攻があり、平和の実現や核兵器の使用と核の拡散防止が重大な脅威となった。地球規模の課題を解決するための国際社会の連携を一層強化する実行性のある仕組みが期待される。
W103	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	30代	2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境 10.その他	生活者（一般の方々）のライフスタイルをいかに変えることができるかが，生物多様性や，陸域・海域の環境保全などに大きく影響するのだろうと感じます。そのための前向きな政策が国や地域には求められると思います。政治への関心離れも環境問題を考えるうえで，対応してゆかなければいけない課題であると日々思っています。
W104	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	6.人口	最終的には、世界規模の人口の急増を抑えることに帰着するのではないか。技術開発による改善スピードを制約条件とした人口コントロールが必須となる前に，対策しなければならない。
W106	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	5.水資源 6.人口 7.食糧	気候変動や水資源の不足で食糧の増産が困難な中、人口だけは増え続けるという事実が、限られた地球に人間が生き続けることの困難さに一層拍車をかけている。
W107	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用)	企業や経済界からの参画・行動が必要と感じています。そのような中、貴財団のようなイニシアチブをとられている団体があることは、大変こころづよいです。ほかの企業のロールモデルとなるような活動を期待いたします。
W108	松本　茂	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	結局、人々が自身の問題として取り組まない限り、地球環境問題は解決しないと思います。
W109	[-]	アジア	日本	企業	60代	9.社会、経済と環境	現在のロシアによるウクライナの侵攻は、気候変動よりも人類の生存に与える影響は大きく、また結果的に地球温暖化への対応にも影響を与えると考えます。気候変動に関しては、欧州等で化石燃料から再生エネルギーへの切り替えが進む要因となり得ますが、戦争による人類の生存が脅かされることになり、このアンケートに回答を始めてからはじめて戦争による生存の危機を明確に認識しました。
W110	湯浅　陽一	アジア	日本	大学・研究機関	40代	8.ライフスタイル	ライフスタイルを変えなければならないという認識は広く共有されつつある。しかし、実際に、無意識のうちに習慣化してしまっている部分を変えていくことは、かなり困難ではないかと感じている。
W111	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動	脱炭素化についても大企業の多い大都市圏と地方圏で行動格差が生じていると考えられる。地方が取り残されないように相互にリンクし、共同で脱炭素化する政策が必要と考えられる。
W118	[-]	アジア	日本	企業	40代	1.気候変動	地球環境の変化に関係すると思われる気候の変化が各地で見られるようになってきている。それにより大変な被害を受けられた方もいらっしゃる中で気候変化の抑制のために積極的な行動が一般市民レベルから政府に至るまであまり見られない。これまでと同じようにエネルギーを使い、化石燃料を使い一層気候変化に対してアシストしているような動きをとっているように見える。個社の活動では世界に対する影響は限られるので、政府を中心としてこれまで以上に積極的に行動しないと今後が心配である。 経済性との天秤になっている側面もあるので、きちんとビジネスとして成り立つように後押しする必要がると考えている。
W120	鈴木　克徳	アジア	日本	NGO/NPO	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候変動問題が最も深刻な危機であるが、この問題は単独で解決できるものではなく、生物多様性の保護、循環経済の推進などと一体的に取り組む必要があるが、現状では特に国内ではそれらがばらばらに進められているとの印象が深い。 また、持続可能な社会づくりには教育・人づくりが極めて重要であるにも関わらず、教育・人づくりに対して十分な人的、資金的な資源が配分されていない。世界的には、子供たちに対して自己効力感を持たせることがカギと言われているが、日本の場合には、社会を変える力があると認識している子供たちが他国と比べても圧倒的に少ないことが問題である。
W122	岸　道郎	アジア	日本	その他	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性)	日本人は他の国よりも魚を食べる民族なので海の多様性を保つのに貢献できない。
W123	浅利　美鈴	アジア	日本	大学・研究機関	40代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	消費行動（製品選択）が、投票行為であることを、改めて発信・教育する必要性がある。
W125	[-]	アジア	日本	地方自治体	60代	1.気候変動	地球温暖化の問題に関しては、時間切れの心配が急速に高まっていると思う。
W128	齊藤　隆	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境	環境問題に対する個別の取り組みはいずれも大切なものだが，戦争によって台無しにされかねません．環境問題への取り組みは平和があってこそであると痛感しています．
W132	和田　昌樹	アジア	日本	ジャーナリズム	70代以上	10.その他	1～9番までの項目はすべて複雑に関連しているものであり、質問項目が問いかけている問題をまとめて回答するのは困難です。
W134	[-]	アジア	日本	企業	50代	10.その他	戦争が最大の環境破壊。平和が持続的発展、地球環境保全の要。 このようなことが21世紀の前半で欧州で損なわれていることが最大の危機。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W135	萩原　利幸	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 7.食糧	大気中への二酸化炭素の排出、生活様式の変化に伴うゴミの増加、環境意識が低いための汚染水放流など、身の回りを見るだけでも、この先環境が急激に悪化するのではないかと不安に感じています。環境が悪化すれば、人体及び地球上の生物への悪影響、食糧不足、感染病まん延、複数国間でのこれまでの石油戦争に加えて水資源や食料の争いなどにつながると思います。ただ自分も地球温暖化に係る業務に当たっていて感じるのは、利益を追求した産業革命や工業発展と異なり、地球規模での環境保護を実施するインセンティブを構築するのはむずかしいです。自発的な環境保護のきっかけとして、SDGsに取り組まない企業は認められないとは決して思いませんし、炭素税や排出権取引の押しつけは産業の廃退につながります。生活面でも、例えばコンビニの普及は、生活が便利になる一方で、ペットボトルや弁当ガラが大量に廃棄されています。昔は特に会社勤め人には不便でしたが、水筒や弁当を持参し、豆腐や味噌も自分の容器を持参して購入していました。大量生産の商品を安価に購入して1年で使い捨て、というのも当たり前になっているように感じます。幼い頃遊んだ近所の河川も、汚水まみれで飲み食いのゴミが漂います。大気汚染は目には付きにくいですが、二酸化炭素濃度の急激な上昇は、多くが海水に吸収されていることを加味しなくても、十分不安に思います。世界規模では、COPやIPCCは無力に感じますので、個人の意識を高めていく地道な努力も必要だと思います。日本でも、環境がきちんと取り上げられることは少ないと感じます。私の周りでも意識が高い人は見受けられず、グレタさんを知らない人は多いですし、SDGのバッジを付けている人がごみをポイ捨てしたり、食べ物を太るからとの言い訳だけで半分以上残したりしています。地道ではありますが、再エネ促進やリサイクル向上などの特効的な活動にできるだけ取り組むとともに、幼い頃からの教育、その教育を施す人々への研修、実践する社会人は経営層としても、1組織人としても、取り組み方はあると思います。
W138	勝山　正則	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球環境問題は、上記のように項目ごとに分けられ、SDGsでも分けた方がわかりやすいから分けていることは理解出来るが、本質的には分けられるようなものではない。例えば気候変動が起こることで水資源にも生物多様性にも影響し、防ぐ･緩和するためには人口問題=食糧問題、ライフスタイル、社会･経済問題が解決されないといけない。上記9個の項目は全て連携している。このように、表か裏か、善か悪か、YesかNoかと言う安直な2元論から脱し、俯瞰的に全体を考えるようにならないと、環境問題が自分事とならない。そういう教育を進め、科学的に物事を考えることの人材を育てることが最も重要であり、政策によって教育環境、研究環境をしっかり守ることが何より必要。その意味に置いて、基礎科学を軽視する現在の国の教育に対する方針を根本的に変えないと、この国の将来は暗い。
W143	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	9.社会、経済と環境	ウクライナ情勢について、気候変動対策にも大きく影響すると思います。戦争に関する項目があれば望ましいと思います。
W146	[-]	アジア	日本	地方自治体	40代	1.気候変動	近年では、局所的な豪雨が頻発しており、それによる災害も生じている。このままでは、我々の生活に支障が生じると思うが、具体的、効果的は対策が思いつかない。
W148	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	20代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 9.社会、経済と環境	日本では気候変動対策の名の下で、石炭・石油火力発電所の延命につながるような技術の開発に政府が投資をしたり、森林破壊や原産地での人権侵害を伴うようなバイオマス燃料の利用が補助金を受けたり、実際にはGHGの削減にはつながらない技術に投資されたりしている現状に危機感を覚えます。
W149	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候変動や生物多様性保全などの地球規模の問題について厳しい状況ではあるが，ESG投資などの企業への資金の流れの変化などをきっかけに産業界での認識が大きく変わってきているように思われる。これと連動して消費者の認識の変化が今後起こってくることが期待される。
W150	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動	ウクライナ侵攻によって生じたエネルギー危機の状況は深刻であり、気候変動対策の進捗による化石資源開発の鈍化、新型コロナウイルスからの回復基調におけるエネルギー需要の高まりという状況が相まって、ロシア産を代替するエネルギーの確保に大きな障害が生じている。今回の危機によって、気候変動対策は停滞を余儀なくされているが、改めてエネルギー確保の重要性が認識される機会となっており、我が国のような資源のない国にとってはエネルギー源の多様化（エネルギーの種類、供給先の多様化）の価値が再認識されたと感じる。
W152	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	30代	4.生物化学フロー(環境汚染)	COVID19の問題で隠れてしまっているが、残留抗菌剤の問題は、将来的に非常に深刻な問題となることが懸念される。早い時期から国民が認知し、問題解決に向けた技術開発や、対策費用の算段などを進めていく必要がある。
W153	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	地球レベルでの環境の保全・改善への関心が低下し、それぞれの国や地域の経済的・思想的利害が環境政策にも強く反映される傾向にある。
W155	森嶋　彰	アジア	日本	NGO/NPO	70代以上	10.その他	人間の愚かさとエネルギーを化石燃料に頼っている脆さを感じる。
W156	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	地球環境問題は、各国の利害が複雑に絡んで来ることが解決を困難にしている。気候変動問題の温暖化ガス排出削減に係る先進国と発展途上国の対立がその典型である。さらに、根本原因が明確ではなかったり、問題解決に長時間を要したりするケースもあり対応が難しい。一部の専門家（事実に基づく科学的な議論ができる専門家）だけではなく、多くの人の意見を吸い上げ、利害関係に過度に捕らわれず、地球規模で可能な限りwin-winの関係を築けるような方向性を見出す努力を継続することが肝要であると考える。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W157	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	避けようのない自然災害に対する防災・減災殺意識は着実に高まっていると思いますが、人由来の環境破壊に対する対応についての危機感は低いように思います。環境教育その他を通じて、情報・知識としての「環境問題」は知っていても、問題解決につなげるアプローチが短絡的（例えば、レジ袋やプラスチックストローの削減、再生可能エネルギーの拡販など）で、ワクワク感が無いのがつまらなさの要因のように感じます。
W158	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	10.その他	戦争は最大の環境破壊と言われるが、ロシアによるウクライナへの侵略戦争の報道を見ていると、正にその通りだと感じる。人類が知恵を絞って環境保全や改善を進めるように試みても、一人のとんでもない独裁者が現れるとどうしようもなくなる。 環境改善のためには、地道にコツコツと政策を含めて対策を進めていくしかないと改めて感じている。
W159	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動	ウクライナの戦争で本来途上国へ向かうべき気候変動対策・適応の資金が戦費に費やされることになり、UNFCCCの目標達成がさらに遅れることになる。
W160	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	3.陸域系の変化(土地利用)	日本のように便利や快適性に満ち溢れた社会に身をおいていると、水や空気は何の努力もしなくても手に入るもののように錯覚してしまうが、これからは人口増加、気候変動が深刻となる中で、森林などの自然が保ってくれているクリーンな水や空気なども努力して守っていかなければならないという認識を多くの人が持つ必要があると思います。電気自動車やスマホが無くても人類は生きてきましたが、水や空気が無くては人類は生存することはできませんので。当たり前のことではありますが、多くの方はこのような意識はほとんどないと思います。
W161	[-]	アジア	日本	地方自治体	60代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	原油高や電力需給バランスの危機は気候変動やライフスタイルに影響を与えるだろうが痛みを伴う。マスコミの報道もそういう問題点を指摘し報道する立場。旭硝子財団には、例えば再生可能エネルギーへ転換していく事の恩恵など希望の持てる情報発信をして欲しいと思います。
W162	一ノ瀬　俊明	アジア	日本	大学・研究機関	50代	6.人口 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	限られた資源や機会の中で、それらをいかに平等に分配するか、についても、人々の価値観は異なる。時代は、最大幸福と最小不幸とのせめぎあう局面に来ている。最小不幸を追求すると、地球環境の許容量を超えるケースもあるだろう。
W168	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	40代	7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	科学的な研究が進んできたなかで、様々な研究機関の情報がオンラインで発信されるようになり、一般人でも比較的容易に手に入る時代になった。それはコロナ禍において大きく前進したと思う。一方で政治や企業活動において、情報の乱立や、イメージ戦略的にSDGsがその実態も不明なまま使われている懸念も大きい。SDGsに関して多角的に議論し合える場が、政治や社会・企業で広がり、パートナーシップを軸とした活動に展開することを望んでいる。
W171	川東　正幸	アジア	日本	大学・研究機関	50代	2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧	全ての項目は有機的に関わりを有するものの、特に選択した項目は互いに深いかかわりがある。8．と9．同士も関わりがあるが、これは都市内の問題であり、国ごとの経済状態に起因し且つ政策によって改善の兆候を見出せる可能性がある。しかし、選択した項目における変化は大きくなりすぎて人類が定常状態の現状と過去を把握し、両者の変化を把握することさえ困難なくらい規模が大きくかつ進行してしまった地球環境問題である。１．はさらに規模が大きいために把握・制御および評価が困難な環境問題である。選択した項目は、基本的には人間が豊かさを追求することによって負の方向に進行し、人口の増加に伴って、大規模になってしまった環境問題である。人口増加に対応するために食糧生産を上げることが必要になり、土地の開拓および土地生産性を上げることにつながり、ひいては陸域生態系を変化させてしまっている。農地転換された土地では施肥、農業の機械化に伴う著しい土地侵食を引き起こし、さらには周辺水域の汚染を引き起こしている。これらの陸域および水域における環境変化は生物相にも影響し、多様性および個体数の減少につながっており、場合によっては生息域の減少から野生生物の都市への進出を促すことにもつながっている。どこかに変化が生じれば、玉突き式に影響するため、負の影響が末端まで広がることを認識しておく必要がある。問題解決への取り組みも一つの分野、一つの方向からのアプローチでは不十分であり、これらの連環を意識した俯瞰的な計画が必要とされる。
W172	[-]	アジア	日本	その他	50代	10.その他	ロシアのウクライナ侵攻により、大国が独裁的に侵攻等を行った場合に世界的に制御できないことが露呈された。非人道的な殺戮が行われ、世界でもその報道がなされても自らは戦火に巻き込まれたくないという状態にある。このような状況下で、穀物やエネルギー資源が大幅に価格上昇するとともに、供給量が足りなくなってしまっていることで、環境問題への対応等が後回しにされる危険性が高いと感じるし、侵攻により損害を与えたロシアが今後何の制裁も受けないことで終結してしまうことへの恐れが大きい。
W173	押谷　一	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境	かつて世界銀行などは経済成長に伴って環境問題に対する意識や技術革新が進むとクズネッツ仮説をもとに示していたが、現実の社会ではその期待は外れているように思う。戦後（1945年の第二次世界大戦後）に形成されたと考えてきた平和で安定した経済システムは崩されており、環境問題に対する取り組みのプライオリティは低下している、非常に強い危機感を感じている。
W175	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	6.人口	地球環境問題は、つまるところ人口問題であろう。この設問は何を導き出したいと考えてこのような項目を挙げているのか、意図を図りかねる。陸があるのに海についての項目が抜けているのは不思議だ。
W176	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	9.社会、経済と環境	今年2月、ロシアのプーチン大統領の特異な思い込みによる歴史観から、ウクライナへの侵攻が始まり、世界は一気に不安定な状況に突入しました。人の尊厳、生きる権利を理不尽な思い込みで奪う状況は、決して許せません。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W177	川下　都志子	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源	地球環境が穏やかな気候状態になった理由として、やはり、植物生態系の出現と進化は、大きな貢献があります。その植物の群生の中でも「陸上の世界一の生産者」と呼ばれる「森」＝「原生林」の役割と機能は、他を圧倒します。防災機能を備え、水の惑星と言われる地球の空地中の湿度の調整から、浄化・還元まで果たし、土を育み海をも豊かにする森は、私たちにとって、「生きるため」の縁(よすが)です。所謂、経済林や里山林の様な人間の経済効果やエネルギー供給を目的とした「林」とは、一線を画します。「林」が生活の為のグリーンならば、「森」は、日々生き延びる為のグリーンなのです。暴れる太陽エネルギーと気温を上げる二酸化炭素を吸収固定し、気温を下げる酸素を供給してくれる。しかもそのサービスを無償で提供し続けてくれる。それだけでも価値があると気付く筈ですが、土地本来の森を再生する為に理解を求めても経済効果の有無で判断をするシーンが多々あります。行政も企業も団体も資本主義社会の価値観が根深く、その根底も物差しが物事の判断を鈍らせます。このまま異常気象を他人事の様に看過し続ければ、あらゆる団体が大事に守っている紙幣価値そのものが崩壊することでしょう。気候変動による経済的な打撃は、国境を越えて拡大し、水不足・食糧難・疫病・災害、果ては国家の崩壊と悪夢の様な未来が待ち構えています。環境問題を他人事とせず、もっと本気でリスキーに戦略と対策を練る必要があり、その政策は、人界の節約や工夫のみならず、同時並行に地球生態系へ貢献できるものでなければ、間に合いません。実働を伴わない環境貢献は、貢献ではないのです。イメージ戦略やパフォーマンスに留まらず、自分たちの為、子孫の為、数多の生物の為、人間が出来る最善の政策を毎日真剣に検討し、実行する必要があります。
W180	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	気候変動問題は、わが国では2050CNが提唱されているが、具体策が、明確でないように感じる。早急に具体策を策定し、実行していく必要があると考えます。
W181	[-]	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	1.気候変動	さまざまな取り組み、改革が打ち出されていることは好ましいが、実効性が大きな課題になっている。
W183	二宮　洸三	アジア	日本	その他	70代以上	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球環境問題の根源は「地球の容量」を超えた開発・発展の妄信にある。地球の容量への理解無くして解決の路は開けない。
W184	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	非平衡・複雑系の問題を教育で，どのように，どこまで浸透させることができるか，悩み続けています．
W187	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	気候変動問題の深刻さは日に日に増しているが、世界的なコロナ禍や大規模な国際紛争のような喫緊の課題が立て続けに発生し、人々の意識がそちらに向かわず、状況がますます悪化していくことが懸念される。
W189	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	ロシアによるウクライナ侵略は、世界経済やエネルギー・環境問題に大きな影響を及ぼしつつある。核兵器を持つ国は何をやっても責任をとらされることがないということになると,世界平和は「絵に描いた餅」となりかねない。人類の英知が現在ほど必要とされているといえよう。
W191	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動 3.陸域系の変化(土地利用) 8.ライフスタイル	近年、特に脱炭素、マイクロプラスチック、食品ロス問題に関心が集まっているように思える。今後も、一人ひとりが危機意識を持ち、自らの行動変容が自分のメリットにもつながることを認識してもらえ、積極的に行動してもらえるようハード、ソフトの各種施策を推進していく必要がある。
W192	郡嶌　孝	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	コロナで、ライフスタイルの変化が見られたが、ポストコロナへの新常態への移行には程遠い。
W193	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 7.食糧	生けるものは概ね利己的なので、環境問題への対応は、個人にとっても、集団にとっても最優先事項とはならない。残念なことではありますが…。ただ、環境影響の少ない（若しくは無い）エネルギーを生み出す技術革新に期待したいし、その比率は徐々に上がると思う。日露戦争や第一次世界大戦からのこの百余年での進歩を考えると、20年後、百年後が楽しみです。他国を凌駕することではなく、持続可能な地球を作ることへの目標転換（生けるものが払う犠牲の行き先の転換）が必要ですね。
W194	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 7.食糧 9.社会、経済と環境	COVID19のような新興感染症の出現予防策および出現後の対策は依然として不十分であり、自然破壊や人間活動範囲の拡大のような病原体の変異を促進させる要因は増加している。今後の類似の事態に備えて、国際協調・協力が必要である。他方で、ロシアによるウクライナ侵略は、ウクライナにおける様々な破壊とともに、地球環境問題に関する既存の国際協調・協力の枠組みにも悪影響を及ぼしている。
W200	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染)	気候変動、環境汚染、多様性保全は経済活動との両立を前提にすると、往々にして軽視されることが多いように感じる。経済も地球環境保全もというきれい事では、すでに対応できない状況に来ているのではないだろうか。経済成長、利害関係から中立的な立場を取れない国家主導の政策では、進展性は望めない。
W201	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	10.その他	SDGsに代表される地球環境問題は、ここで挙げられた各項目が同時に達成されることが重要であって、ときとして個々の項目に特化した取り組み、評価が行われてしまう風潮（他の項目とトレードオフになってしまっている場合など）を懸念する。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W202	[-]	アジア	日本	企業	30代	1.気候変動	異常気象が続いているような気がします。 以前は温暖化というマイルドな言葉でしたが、殺人的に暑い夏や、災害級の豪雪など日本中でもいろんな自然災害が増えているので、すごく心配しています。それが人間起因であることは明らかなので、企業として、個人としてできることを考えたいです。
W203	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	人々の望む豊かな生活と環境保全の両立は徐々に達成されつつあるが、十分ではない。脱炭素政策も目標設定が困難すぎるものであり、実現可能性が高くなく、政策間の一貫性がみられない。政府任せでは、根拠のある政策立案は難しい。
W204	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動	人間の活動で気候変動が起きつつあるということは、かなり一般の人たちにも認識されてきたと思われる。企業等は気候変動対策に熱心になりつつあるが、政治家や経営者がどこまで本気で気候変動対策に真剣に取り組んでいるかはかなり疑問である。二酸化炭素排出量削減よりも経済性の方を重視している人間の方が多いのではないか。
W209	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	10.その他	現状では，SDGsは数ある政策課題の1つ，しかも優先順位が低い政策課題としか位置づけられていない．例えば，ロシアのウクライナ侵略を奇貨として，日本でも軍備拡張を唱える論調が喧しい．しかし，SDGsの理念に立てば，特定の国を敵対国と想定した軍備拡張ではなく，地域のあらゆる国々を包括した信頼構築を通じた安全保障体制の確立が必要であると考える．安全保障政策を含めたあらゆる政策に，SDGsを貫徹することが求められる．このままでは現在の文明は核戦争か気候変動で崩壊することを強く危惧する．
W210	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9.社会、経済と環境	国際的にSDGsの達成を目指す取り組みを掲げる一方で、ロシアのウクライナ侵攻のような戦闘状態がひとたび発生すれば、殺戮と都市の破壊、エネルギー供給の停止、局所的な避難民による衣食住の問題などが発生する。国際社会の安定した経済と紛争のない状態を維持することがなによりも重要と思う。
W211	[-]	アジア	日本	企業	60代	2.生物圏保全性(生物多様性)	ESG投融資の文脈では気候変動を生物多様性の損失は同じレベルで議論されていますが、国内や社内など身近なところでは生物多様性への危機感が希薄に感じます。生物多様性保全＝絶滅危惧種の保護という認識が強く、その生き物と私たちのくらしが関係あるのか、とか、環境を守る事と経済活動がトレードオフになるという認識が強く、絶滅危惧種の保護も大切だがそれで開発や経済発展が制限されてよいのか、という認識が根底にあるのではないかと思います。これは情報発信する側も気を付けないといけない点かと思います。
W212	桶谷　治寛	アジア	日本	その他	50代	9.社会、経済と環境	長年にわたって築かれてきた世界平和が一人の独裁者のために破壊されつつある。聞く耳を持たない者にそのことを理解させることは非常に難題である。
W213	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動	気候変動などを実感として感じることが増えている中で、どのような解決策があるのかわからないと感じています。地球の変化についてもっと知る機会があると良いのかもしれません。
W214	古澤　広祐	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 9.社会、経済と環境	・全体的に対応が不十分である。その中で気候変動問題はメディアなどでの注目度や危機感は高いが、２，３，４についての認識は極めて弱い。 ・上記これらについて、人々の認識と意識の向上を図るとともに、気候変動対応などを含む総合的で相乗効果的な対策や政策を期待したい。 ・とくにSDGsの17ゴールを個別的に見るのではない、総合政策が必要であり重要である。
W223	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 8.ライフスタイル	2050年のカーボンニュートラルの達成は技術だけで乗り切れるものではなく，ライフスタイルの大きな変更が必要である。しかし，残り30年しかないことやできる範囲の変更では実現できないという認識が広がっていない。ちょっとづつ，できることだけ，という認識をもつほどに情報が一般に定着していないと感じる。
W226	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	2.生物圏保全性(生物多様性)	金融業界や企業の取り組みが大きく進んだ。
W230	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	3.陸域系の変化(土地利用)	地域的には、土地改編や土壌破壊、不適切なフォ場処理が行われていて、熱海の土砂崩れのように人災と思われるような災害が多数あります。グローバルな観点では、砂漠化が進行していて地球温暖化に拍車をかけているようです。
W231	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用)	人口増加による食糧不足を補うために農地は拡大する一途です。農地は生態系を改変してしまう大規模撹乱であるため、生物多様性に及ぼす影響が評価される前に開発が進めば、種の絶滅を誘発する可能性もある。環境アセスメントを伴わない事業であっても環境に及ぼす影響を明らかにすることが、地球環境問題解決の第一歩であると考える。
W232	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	5.水資源	認識が日本では非常に低いと思う。CNのキーポイント
W236	東城　清秀	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	地域紛争に、化学兵器などの地球環境問題と関連する兵器が使用されようとしており、新たな脅威が生じている。
W237	武井　幸久	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性) 6.人口 9.社会、経済と環境	身近な環境で、まず実感することは、猿や鹿が増えているようだが、ここ数年カラスやスズメが激減している。同じく、少子高齢化そして人口の減少にも歯止めがかからない様態が続いている。地域や国で支えられる安定人口、持続可能な地域像・国家像の議論や検討も進んでおらず、米国の実業家はこの国の消滅の可能性さえ喧伝している。教育の場は、子供たちが将来についてきちんとしたビジョンをイメージできる状態とはなっていないようである。不安定な雇用状態で、結婚や出産さえ困難な若い世代が増加の一途をたどっている。地域と国の持続可能性が、環境の持続可能性の問題よりも喫緊の課題となりつつある。このことは、この国と国民がいなくなることが、環境の持続可能性に最もよいと言った逆説的でSF的な終末論さえ想像せしめていないだろうか。この国の国際的な存在感や貢献を可能とするための、社会の持続可能性は確固たるものとして存在しているのかどうか心配である。
W238	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境	現世代の地球環境問題を解決するための取り組みについて、その恩恵を受けるのは現世代ではなく、おそらく数十年先の次世代である。現世代の人々が現在の生活水準に一喜一憂していては、地球環境問題への取り組みに本腰が入らないと思われる。「衣食足りて礼節を知る」の順を鑑みて、国によりSDGsの17目標の優先順位を考える必要があると思われる。
W239	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	6.人口	地球環境問題の根本は人口問題だと思います。その意味で発展途上国への教育支援が重要かと思います。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W241	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル	気候変動は、生物多様性の滅失や、食料の安定供給など、全てに関わります。 今までの消費型資本主義から、新しいスタイルに移行すべきです。
W243	藤村　コノヱ	アジア	日本	NGO/NPO	60代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境 10.その他	気候変動対策は喫緊の課題だが、その解決には、人々のライフスタイル、価値観だけでなく、産業構造の転換や経済そのものの形を変えていくことが不可欠である。しかし現行の政策や我が国の方針はは相変わらず短期的経済成長を求めるものであり、その結果、個人の暮らしや価値観を形成する元となる教育までが、経済至上主義を反映するような内容となっている。経済が成長し、人々の暮らしは便利になったが、その過程で失ったものも多く、格差も拡大し、環境問題だけでなく社会不安も拡大している。 地球１個分の暮らしに戻すことで、脱炭素を実現するだけてなく、個人として社会として失ったものを取り戻すことが、必要なのではないだろうか。
W246	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候変動行動や脱炭素への取り組みで重要と思われる「化石燃料の大幅削減特に石炭火力発電からの離脱」の取り組みが遅く、世界中でESG投資が進む中で、先進諸国の中では脱炭素の具体的行動の遅れが目立つ。水素やアンモニアの利用で石炭火力を延命させる政策は世界中から非難され、不名誉な化石賞を授与されることは間違いない。
W248	横田　弘幸	アジア	日本	ジャーナリズム	70代以上	1.気候変動	気候変動対策が考えられてきたが、ロシアによるウクライナへの侵攻によって、ヨーロッパ各国はエネルギーの原発への依存度を高める方向に動くのではないか、と心配している。エネルギーのロシアへの依存度を下げるためだ。 原発事故による環境破壊こそ、私たちの目の前で一気に引き起こされる最大の脅威だと思う。事態は極めて深刻だ。
W251	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	気候変動に関しては、様々な場で議論されて、様々な宣言が出されているが、地球全体として考えた場合、発展途上国等では自分達の経済や住環境を改善する事等の方が優先順位の高い課題となっているはずなので、トータルで実現できるのか疑問がある。先進国がどのように対応して行くかは大きな課題であるが、国連の指導力は低くリーディングして行く団体があるのか非常に不安に感じる。
W252	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 7.食糧	地球温暖化化による大型台風、大雨、土砂崩れ等の自然災害多発や大規模地震頻発の他、少子高齢化進む中、地方の疲弊、特に農業・水産業等一次産業の衰退による食料自給率の低迷問題、土地利用の変化（人口都市集中、地方都市の過疎地化拡大、農耕地減少、森林保全・管理なく放置・放棄等）、問題が山積み・深刻化している。また、日本独自の問題として、食料自給率の低迷、過大な食料調達マイレッジ、大量消費と廃棄（見た目を気にしすぎる、過剰な賞味期限管理）、過剰梱包による包装・パッケージ等大量のごみ発生、リサイクル観念の欠如等が深刻化、人々の意識だけでなく、政府の提言、対応、法制度化等もすすんでいない。
W253	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境	今年に限って言えば、戦争の恐怖が現実味を帯びて伝わってきており、非常に不安です。
W255	[-]	アジア	日本	その他	60代	10.その他	コロナ等のウィルスの蔓延やソ連のウクライナ侵攻等、予想外の課題が発生すると、環境問題どころでは無くなり、将来を予想するのば難しい。
W256	星野　眞	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	気候変動低減に対して諸面で意識の改善は見られるが、具体的行動の速度が遅すぎる。 生物圏保全性(生物多様性)保全に関しては、殆ど何の改善も見られない。 危機時刻が10分以内で表現出来れば、もう11時50分～55分の間と答え度い位である。
W258	松井　健一	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 5.水資源 9.社会、経済と環境	気候変動は、将来さらに大きな地球規模課題となるだろう。大学においては気候変動学、企業においては気候変動対策課などの設置が重要になるだろう。これに付随した、自然災害対策についても非常に重要な懸案である。今後さらに大規模な洪水などが発生した場合、現在のインフラだけでは十分な対策とはいえないだろう。インフラ対策に加えて機能的な対策も大幅な向上が必要となる。土地利用は生物多様性保全や水資源保全に大きな影響を与える。環境ニーズを十分担保できる政策の作成も様々なレベルで必要である。
W260	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候変動問題は、結局のところ現在の社会・経済システムから発生しているものと考え、個人の自主的なライフスタイルの変換に大きく期待することは危険であると考えます。個人が選択できるライフスタイルには、すべて気候変動的配慮が反映されるよう社会・経済システムへの「内部化」が必要であると思います。
W263	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球環境問題に対する意識が高まっても、地域の環境汚染などのローカルな問題が軽視されたのでは意味がない。
W264	坪内　俊憲	アジア	日本	大学・研究機関	60代	2.生物圏保全性(生物多様性)	最重要項目であるが、政治も経済もほとんど興味を持っていない。
W269	湯本　貴和	アジア	日本	その他	60代	10.その他	SDGsに関しては、さまざまなセクターでことばは知られてきたが、どれかひとつの目標への貢献を強調し、他への悪影響を無視あるいは隠蔽するSDGswashが蔓延している。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W271	梅村　一之	アジア	日本	大学・研究機関	60代	6.人口 7.食糧 9.社会、経済と環境	21世紀において地球環境に最も大きな負荷を与えている要因は、紛れもなく人類の活動にあります。 人類による負荷要因としては、石油・石炭・天然ガスから鉱物などに至る過度な資源開発から、これらを用いた生産・消費活動、さらに資源や領土、宗教や民族、貧困と差別等々に根ざした地域紛争や戦争もまた地球環境への脅威となっています。 こうした問題を解決する手立ては、簡単ではありませんが、20世紀型の大量消費社会をと貧困問題を是正すると共に、相互理解『和解の力・政治・政策力』による特に紛争の解決が鍵となるように思います。人類が互いに争っている遑はなく、今私たちは如何に生きるかを問われているのだと思います。
W272	板倉　賢一	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境	地球環境問題は世界中の国と地域の人々や政策者が同じ意識と理解，同じ政策，施策を掲げて実行しないと解決しない。現実は，国内でそうした活動が進められつつあるように見えるが，世界中で見ると温度差が激しい。それをどこまで許容するのか，誰も答えられないもどかしさがある。
W273	渡辺　紀徳	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動	エネルギー供給技術に関して2050年実質ゼロカーボンに向かう雰囲気は醸成されているが，定量性と具体性の高い施策が講じられるまでに時間がかかるように見受けられる。再生可能エネルギーを大量導入しつつ安定したエネルギー供給を行うための課題，水素社会に至るまでのシナリオなどがもっと緊急感を持って検討されなければならない。
W276	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 5.水資源	気候変動により、水資源が危険な状態になっています。どのように取り組めばいいのかわかりません。
W277	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	コロナ禍は社会変容のチャンスと思われたが、世界的にもナショナリズムを加速し、エゴイズムの横行、格差の拡大を生み、平和と安定はいっそう危ういものとなっている。コロナ以前に戻る方向で社会が動けば、資源の争奪、固有性の喪失はいっそう加速し、温暖化も生物多様性劣化も食い止めることは不可能となるであろう。
W278	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動	危機であることは十分に示され、様々な人も考えることが多くなってきているものの、具体的な対策や施策についてはまだまだ一般市民には届いていないように思われる。
W279	[-]	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	若者のライフスタイルの変化に期待しています。彼らが投票行動に本格的に動けば社会は変わるだろう。
W280	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動	エネルギーや気候変動に関する国民の意識は確かに変わってきていると認識しています。しかし、2050年カーボンニュートラル実現などの大きな目標の達成には、まだかなり遠いと感じます。カーボンニュートラルは、省エネ行動だけでは達成できないので、技術の導入やそのためのコスト負担なども含めてさらなる意識改革が必要と思います。
W281	大塚　善樹	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境	殆どすべての環境問題は地域ごとに異なっているので，地球全体の環境問題というものは存在しない．気候変動も原因も結果も地域間で大きな差がある．それを地球環境問題と言ってしまうのは，加害と被害をうやむやにする言説である．
W282	中原　秀樹	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	DXの進展により政治の信頼性の欠如が増加することを危惧する。その結果政治体制への不信が、持続不可能なライフスタイルを改善するための意思決定に悪影響を与えている。
W284	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 6.人口 7.食糧	気候変動と環境汚染を同時に解決していくコベネフィット対策が必要である。ほとんどの環境問題と食料問題は人口問題が原因であると言っても過言ではない。したがって、早急に気候変動対策や環境汚染対策を行いながら、人口爆発を抑え、食料問題などを解決していかなくては、我々人類に22世紀はないと思われる。
W285	[-]	アジア	日本	中央政府	50代	2.生物圏保全性(生物多様性)	生物多様性の次期世界目標の検討が遅れていることをとても懸念します。
W287	筒井　隆司	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動	政府は2030年のGHG削減目標を公約として掲げながら、何ら具体的な推進策や産業別の削減目標値を交渉や公開しておらず、実現可能性が甚だ疑わしい。カーボン税など含め、強い意識改革をリードしなければ達成は不可能では？
W288	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候変動に対し政府が実現に積極的な政策は、原子力発電以外は見当たらない。とくに脱炭素社会の実現に向けての日本の道筋が見えておらず、2050年に二酸化炭素排出ゼロをどのように実現するのか、誰にも見えていない。
W290	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境	紛争による世界的なエネルギー、食糧資源の供給バランスが崩れており、我が国の食糧エネルギー安全保障が再認識されつつある。我が国は、食糧、エネルギーのいずれも自給率が低く、世界の動向に左右されることから、世界の平和の維持が最優先課題となってきていると思う。
W291	奥津　道夫	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動	気候変動は、本件に関する根源の課題と考えている。その改善を目標をもってマイルストーン毎の成果(結果)を判定し、それを踏まえて対応していくことこそが、現状とりうる唯一の解決策と考えます。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W292	宗宮　弘明	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用)	健全な地球生態系があってこそ、生命が、人間が、個性が、持続可能になると思われます。国際世論によって、早く戦争を「終わらせて」平和な世界を築くことが重要だと思います。その後に、1)気候変動の対策を練り、2)生物多様性を守り、3)地球のグランドデザインを国連主導で対策すること以外に、人類の文化文明を継承、発展できる道は思いつきません。その際には、未来志向の先進的な企業は、重要な役割を果たせると思っています。
W294	高見　邦雄	アジア	日本	NGO/NPO	70代以上	9.社会、経済と環境	再生可能エネルギーの利用ひとつをとっても、日本ではほとんど進んでいない。産業構造も、日本の強みは製造業にあったのだろうが、それが劣化しているのに、それに代わる産業も生まれていない。周辺の国に比べても、技術が陳腐化しているのに、それに対する自覚ももてないでいる。こういう現状を生み出していることに、私たちの年代として反省せざるをえない。
W295	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	60代	1.気候変動 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候変動対策が原理主義と商業主義に走り現実感が薄れつつあるように思い個人的には関わりたく問題となりつつある。また菜食主義（ビーガンなど）＝環境問題の解決という間違ったトレンドが生まれつつあり、ビーガンを進める自治体なども現れ、問題の歪曲が進んでいる。どうもビジネスに気候変動という言葉を使い実は実態のない動きが多くなったように思う。ウクライナ紛争を見るに本当に諸般の問題を実は全くとらえることなく、架空のお話と思える昨今であると感じる。
W297	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 5.水資源 7.食糧	気候変動に伴い、水循環が変化してきている。変化する水循環を上手く制御し、水資源を有効活用し、食糧生産につなげることができるような社会を希望している。地域での食料自給率を上げることが重要であろう。さらに言えば、地域に適した人口と人口構成とはの問いに答えられるようになるとよい。地球上での人口配分の適正化、但し、移民を増やすと言うことではなく、地域における、適正人口を食料の問題から考えて行く。
W299	前川　統一郎	アジア	日本	NGO/NPO	60代	9.社会、経済と環境	言うまでもなく地球環境問題は人類の存続に関わる重要な事項ですが、このことに対する科学的根拠に基づいた共通理解が拡がる事と、今を生きるものとして将来世代への責任に対する倫理観が不可欠と考えます。今の生活を守るため、COVID19やウクライナ問題など、短期的な出来事への対応も当然重要ですが、そのための行動が将来世代の生活を毀損することが無いよう、知恵を絞り、勇気を出すことが政治・経済のリーダーの役割と考えます。
W302	近江　貴治	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動	IPCCレポートで示されたカーボンバジェットを踏まえた対策がとられておらず、ティッピングポイントを迎えてしまう可能性が高まっており、危機的な状況と言える。
W304	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	3.陸域系の変化(土地利用)	土地利用に関しては，農地の含めて，公共性の高い土地は國管理にし，もっと流動的に利用させ，効率化を図らないことには，食料安全保障は担保できなくなるし，生産コストも増加するだろう．
W309	和田　英太郎	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 6.人口 9.社会、経済と環境	気候正義と人口増加、 社会、経済と環境、政策、施策を総合的に見直す変革の時代である。
W310	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候変動問題をはじめとする地球環境問題への意識、対応は高まりつつあるが、2020年からの10年の取組がクリティカルであるという状況には、まったく追いついていない。技術と社会経済の大変革を両輪で進めていく必要がある。そのための、カーボンプライシングをはじめとする根本的な施策を早急に導入する必要がある。また、世界の平和が大前提である。
W315	一方井　誠治	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	10.その他	SDGsの17項目のベースには「持続可能性」という考え方があるが、その具体的な条件や内容は必ずしも意見の一致があるわけではない。例えば、環境経済学では、人間の資源利用に関して再生可能資源をベースと考えるかそうでないかという観点から、「強い持続可能性」と「弱い持続可能性」の考え方があるが、大方の理解は「弱い持続可能性」の考え方に立っている。個人的には、ハーマン・デイリーの持続可能な発展の３原則に代表されるような「強い持続可能性」の考え方に立つべきと考えており、今後、この考え方について国民的な議論がなされることが必要が考えている。
W316	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	60代	9.社会、経済と環境	人々の行動を変えるための啓発方法としてどのような政策が望ましいのでしょうか。 危機との直面は有効な対策を促すように感じられますが、時とともにそうした事は忘れられてしまいます。 地球環境の変化を実感し、記憶に留め、対策を講じるすべとしてＳＤＧｓは有効なのでしょうか？
W318	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9.社会、経済と環境	産業構造の変革の遅れ、豊かな自然環境に恵まれていながら、それを産業として活用しきれていない国の発想に問題があるのではないか。自動車産業、建設・土木業界頼みの産業構造では立ち行かない。
W319	梅崎　輝尚	アジア	日本	大学・研究機関	60代	8.ライフスタイル	「知足」の精神をもつことで生きがいや安寧を得られることに気づかなければ人類は近い将来滅びるしかない。
W321	石井　徹	アジア	日本	ジャーナリズム	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル	人間活動による地球環境への負荷は減っておらず、悪影響は人間自身に及びつつある。ただ、ライフスタイルの変化によってかなりの負荷を減らすことができるのは、今回のＩＰＣＣ報告書も指摘している。今世紀中盤以降、世界の総人口が下降に転じる可能性もあり、悪影響を減らしていくことは、可能だと考えている。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W324	[-]	アジア	日本	ジャーナリズム	70代以上	1.気候変動 7.食糧 8.ライフスタイル	気候変動や環境に負荷をかけない食料生産には、消費者のエシカルな行動が欠かせないが、自分ごととしてとらえる意識が広がっていない。
W325	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 7.食糧	・地球環境の変化を示す項目は、各項目が独立している訳ではなく、それぞれが繋がりを持っており、バランス良く進めていく必要があると考えています。
W327	[-]	アジア	日本	企業	20代	1.気候変動 7.食糧	私が地球環境の変化を示す課題で最も関心を持っているのは、食糧についてです。 新型コロナウイルス感染症のパンデミック、燃料費や輸送費の高騰、穀物や植物油の高騰、ウクライナ危機などが重なったことで、国連食糧農業機関（FAO）の統計開始以来過去最高値を更新する高騰を記録し、世界的な飢餓の危機に対する懸念が発生していることに危機感を覚えています。 企業のサステナビリティ担当として、国内の農業基盤をより強化できるような事業に関する取り組みを発信し、農業の後継者不足等の課題の解決に貢献して食糧自給率を向上させることで、食糧高騰の危機を少しでも低減できるよう貢献していきたいです。
W328	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	50代	4.生物化学フロー(環境汚染)	海洋プラごみは近年話題に上ることが多くなり、プラ削減が産業界を中心に進んでいる。また、国の法制度上も改正がなされ、レジ袋の無料配布やホテル等での使い捨てプラ製品の配布に制限がかかるようになった、しかし、大半のプラスチック製品は手つかずのままであり、どうすれば、大幅削減できるか、まだ道筋が描けていない。リユースの促進のためには、ビジネスモデルから改革する必要があり、さらに大きな国民的議論が必要になってくる。その準備を早く整えないと、さらにプラごみ、マイクロプラスチックによる汚染が進むことになる。
W329	門上　希和夫	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	環境容量を超えている人類の影響を環境容量以下にするには，技術革新などでは全く不十分である。例えば，気候変動問題の解決には技術革新だけではなく，文明のあり方自体を変える必要があるが，痛みを伴うためにそこまでは踏み込めない。その為，残念ながら行くところまで行かないと，全世界で合意をして抜本的な解決策を実施することはできないと考えている。日本を含む先進国が痛みを伴う対策を率先して講じることができれば解決の可能性はあるが，近視眼的，刹那的な社会となっている世界ではそれも期待できそうもない。
W331	安井　伸弘	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候の極端化については実生活において実感している。その原因が人間の活動にあるとの説明も腑に落ちる。なので、ライフスタイルや社会の在り方について改めるべきは改めなければならないと思う。
W332	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境	世界は力による覇権争いが横行し、地球環境問題への関心が後退するのではと危惧する。
W333	建石　隆太郎	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境	現在は、地球環境問題に対して人類が如何に行動できるかが問われていると考えます。この行動の中の一要素は、一般大衆にこの問題に対する認知を広げることであり、この意味においてブループラネット賞の意義は大きいと考えます。さらに受賞者の選考過程において今後重要と考えられる人類の地球環境対策を先取りして一般に提示する積極的な意味も含まれていると考えます。
W335	内田　啓一	アジア	日本	その他	70代以上	10.その他	人類の活動の元となるエネルギーの確保をどうするかが極めて重要で、かつ人類が取り組むことのできる課題であろう。化石燃料に頼らずにエネルギーを確保できるかどうかは今後の人類の活動に大きな影響を与える。地球環境問題に重要な影響を与えるものだが、人類が具体的に取り組むことが可能な課題である。技術的に確実に進展することを期待したい。
W336	荒山　裕行	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源	経済学の分野で環境問題に長らく取り組んできたが、人間にできる地球環境への貢献は、「足るを知る」ことしかないと、半ばあきらめ状態。「存在」とは何か、というような問と同様に、「環境とは何か」を問う卓越した哲学者が出てきて欲しいと願うばかり。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W338	藤原　勇彦	アジア	日本	ジャーナリズム	70代以上	10.その他	ロシアのウクライナ侵攻により、世界の環境問題は、フェーズが変わった。戦闘に際してエネルギーが、無制限に放出されるだけでなく、環境汚染の最たるものである核の環境中への放出が、現実的に不安視される事態が起きている。核の抑止力という「合理的」な思考方法を否定する指導者が出てきた場合、世界は何をできるだろうか。 食糧についても、それを人質化して扱えば、直ちに広範な世界に危機をもたらす。自国の立場を最優先して、国際関係を全く省みない立場は、実はロシアのみのものではなく、冷戦崩壊後の一極集中世界が抱える宿痾のように見える。もちろんロシアの在り様、あるいはプーチン大統領の在り様には、ロシア帝国からソ連、そして特にそのスターリニズム体験という歴史の特殊性が、濃い蔭を落としているとしても、である。 ひとたび開いたパンドラの箱に、再び蓋をする方法はあるのか。まことに成果のおぼつかない努力ではあろうとも、世界の環境関係者は、その立場から即時の停戦と紛争の力によらない解決方法の一般化を訴えてゆくほかはないと感じている。
W340	梅津　千恵子	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	ローカルで起こっている環境問題がどうグローバルな地球環境問題へつながっているのか、またグローバルな地球環境問題がどうローカルな環境や市民生活に影響を与えているのか、双方を意識しながら、お互いにコミュニケーションを取り合い協働することが重要と考える。
W341	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境 10.その他	日本においては、人間の生存権が脅かされる社会的なリスクは比較的に小さいと考える。気候変動や地震・噴火など災害によるリスクの方がより懸念されると思うが、特に原発施設へのこれら災害の影響が心配である。加えて、ウクライナ侵攻をきっかけにした国際紛争状況の変化がもたらすかもしれないサイバー・テロなどの危険性も高まる気がする。SDGsの目標からは外れるリスク意識かもしれない
W344	[-]	アジア	日本	企業	50代	8.ライフスタイル	企業人としては気候変動について色々と取り組んでいるものの、個人個人や家庭内を見た時に、環境に優しい行動を日常で心掛けている人は、期待よりもとても少ないと感じている。必要もないのに車をアイドリング状態にするし、レジ袋有料化していてもあまり気にせず気軽にレジ袋をもらい、すぐに捨ててしまう。リサイクル回収しているエリアでも、すべて燃やすゴミとして出している光景を目にする。
W345	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	私たちが豊かな暮らしを求め続ける以上気候変動や生物多様性の問題の解決は難しい。人々の価値観の見直しが必要であるが、ハードルは高い。
W346	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	新型コロナ感染症、ロシア・ウクライナ情勢など、狭義の「地球環境問題」以外のグローバルな課題に直面する中で、気候変動と密接に関連するエネルギー需給はじめ、社会、経済の基本的骨格にかかわる問題に対する政策、施策が有効に機能していない状況がみてとれ、地球環境問題の優先度が下がっている感がある。
W347	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	5.水資源 7.食糧	本国の食糧事情を考えると、自給率をあげようとする努力があまり見られないことが気にかかります。食料の輸入ができなくなれば、それだけで国民の半数は生きていけなくなる可能性があることをわかっていながら、その事実をみなわかろうとしていないか、現状そのような危機が訪れないことを前提として、経済を回していこうそしているかのように感じることがあります。食料がなくては、生存できず、エネルギーがなくては安心して利用できる水も確保できず、処理もできない社会を作っていることについて考え、最悪の時に自国内でも成立する産業形態も考えておく必要があると思います。国際的に鎖国するのではなく、盲目的に依存することには危険があるように思います。
W348	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候変動問題はとりわけ深刻で待ったなしの問題と思う．一般市民にも，問題の深刻さは伝わりつつある一方で，自らの生活スタイル，習慣を変えるまでには至らないのではないか．きちんとした検証をしたわけでもデータを調べたことがあるわけでもないが，1970年代，80年代と比較して，一人当たりエネルギー消費は増大しているのではないか？なぜ駅の階段はエスカレータに置き換わるのか，なぜ歯磨き，顔洗いの水はお湯になってしまったのか．安易に電子レンジを使ってはいないか．なんでも冷蔵庫に保存していないか等々，もっとエネルギー節約はできるはずと思うが，総論賛成各論反対的で，一般の方々が細かいライフスタイルを変えるところまでには意識の変化が至っていないと思う．
W349	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	環境問題は、人間が作り出した不都合なので、それら不都合を改善するコストと経済的なベネフィットのバランスで解決されるのだと思う。従って、もし経済システムが資本主義でなくなれば、環境問題の改善ももっと早く進むかもしれない。
W351	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9.社会、経済と環境	社会、経済に偏重した進化から、環境政策、施策と社会、経済との融合を図り、エネルギーをみんなに平等に供給し、そして、そのエネルギーの源が枯渇することが予測されている石油から、いかにしてクリーンにすることができるかが重要かと思います。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W352	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	環境問題は，いろいろな意味で経済成長と表裏一体と思います。地球環境問題に関して，京都議定書等を含めてこれまで国際的に様々なことが議論されてきましたが，問題があまり改善の方向に向かっていないのはなぜでしょうか？新しいことをする前に，このような根本的な問題に対し，まずは真摯に答える必要があると思います。
W353	矢内　純太	アジア	日本	大学・研究機関	50代	3.陸域系の変化(土地利用)	陸域生態系の不適切な利用に伴う土壌資源の荒廃が大きな問題であると考える。３．に一応関連付けたが、本来であれば、水資源が1項目になっているならば、土壌資源も1項目あることが望ましい。４．の環境汚染に土壌汚染も含まれるが、それは限定的と思われる。
W354	川村　研治	アジア	日本	NGO/NPO	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	2022年はロシアによるクリミアへの軍事侵攻（布告なき戦争）が人類の存続の重大な危機となった。ロシア側に立って参戦する国が増えず、NATOが前面に立っての戦争には至っていない（5月23日時点）ものの、ロシアは依然として局地戦において核兵器使用の可能性をほのめかしており、短期的に見れば、核兵器による破壊と汚染が人類存続重大な危機として急浮上している。 10～20年先を考えると、この戦争が引き起こした影響はさらに大きくなる。中国の台湾への軍事侵攻の可能性、北朝鮮による対韓国の挑発など軍事的緊張が高まりつつある。東西冷戦の終結後、環境をはじめとする持続可能性問題に対する闘いに、多くの資源を振り向けることが世界全体の潮流となりつつあったが、ロシア-クリミア戦争は、これを逆流させつつある。今後、環境対策に振り向けるよりも多くの資源を軍備拡張に割り当てる国が増えることは確実であるが、その間にも世界の人口は増加を続け、気候変動が深刻化する。 2030年アジェンダの枠組そのものが形骸化する危険姓を強く感じざるを得ない。 また、ロシア-クリミア戦争は、食料不足、資源問題を一気に可視化した。エネルギー資源、食料の高騰は貧しい国々の貧困、飢餓の問題をさらに悪化させている。先進国においても資源を持つ国と持たない国の格差が広がりつつある。資源争奪戦が「20世紀の残滓」としての帝国主義復活の道を拡幅する危険姓が高まっている。 どのような形であれ、ロシア-クリミア戦争が終結を向かえたとしても、人類共通の未来への危機としてとらえ、国連を始めとした国際社会が安全保障の枠組をアップデートすることが喫緊の課題となった。 国内外の主体によるパートナーシップ、国と国とのパートナーシップの再構築がSDGsの最重要テーマとなった。
W355	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 3.陸域系の変化(土地利用) 5.水資源 6.人口 7.食糧 9.社会、経済と環境 10.その他	地球環境問題で最も重要な問題が人口問題であり，それゆえ食糧と，それを支える水資源や気候変動が影響し，それらの理解が非常に重要である。地道だが，様々な観点で地球環境を理解するための様々な研究を継続的に行っていくことが，様々な人間活動の地球環境的な意味を客観的に理解する上で重要であると考えられる。 エネルギー問題も重要であるが，それらの継続的な研究や斬新な研究も必要である。
W358	西川　榮一	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	エネルギー・動力の視点からみると、人類社会は現在化石燃料利用の熱機関時代にあります。1712年ニューコメンの蒸気機関（最初の実用熱機関）、ついで1776年ずっと効率の良いワットの蒸気機関が開発され、風水車や畜力に代わって化石燃料利用の熱機関時代が始まりました。1800年代には蒸気機関駆動の船舶や鉄道の開発普及、1890年代には内燃機関（石油利用の熱機関）が開発され、これを受けて1900年代に入ると自動車や飛行機の開発利用が急速に進みました。この経過は、17世紀に始まって18世紀から本格化した産業革命を経て築かれてきた、人類社会の近代工業化文明の進展と軌を一にしており、加速度的に急増してきたエネルギー・動力需要に応えて、化石燃料利用の熱機関技術はその供給の役割を果たしてきました。 いま重大問題になっている温室効果ガスの排出ですが、90％以上はCO2であり、その大部分は熱機関が利用する化石燃料の燃焼がに起因しています。IPCCは、気候変動の悪影響を適応可能な程度に抑えるには、地球表面平均気温の上昇を、工業化以前（1850年～1900年頃）と比べて、1.5℃までに抑える必要がある。そのためには増加し続けるCO2排出を2025年にピークにとどめ、2050年までにゼロにする必要があると指摘しています。 IPCCはもう1つ注目すべき重要なデータを明らかにしています。それは、工業化以前からの気温上昇とその時からのCO2の累積排出量とはほぼ比例関係にあるというデータです。このことは、化石燃料利用の熱機関時代の当初から、その熱機関によって排出されてきたCO2の累積排出量に伴って気温上昇が続いてきたわけで、温暖化は近年急に生じたのではなく、化石燃料利用の熱機関技術に起因する負の遺産ともいうべき現象として、進行してきたのだということを意味します。その気温上昇が限界にきているということです。 人類の近代文明の拡大進展を支えてきた根幹技術の1つである、化石燃料利用の熱機関時代、その歴史的役割は終わりつつあるとみられます。大局的にはこのような認識に立って温暖化対策に取り組む必要があると思われます。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W364	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	制度や技術もそうだが、そもそも国民の意識が変わらないと難しい。人口は抑制できない。
W366	[-]	アジア	日本	その他	60代	9.社会、経済と環境	ロシアによるウクライナ侵攻は、こうした「力による民族抹殺政策（戦争）」が、実は容易には達成できないどころか、侵略戦争の長期化により国力の深甚なる凋落、長期にわたる自国の社会経済の混乱、低迷をもたらす、という後世への教訓となることで、逆に国際社会が地球環境問題により真剣に取り組む基盤になるのではないか、と期待している。
W367	[-]	アジア	日本	企業	20代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	以前までカネにならないと言われていた環境事業はSDGs、ESG投資等により昨今盛んになってきたが、後戻りや新たな問題の発生が無いものが増加することを祈りたい。プラスチック使用削減に供する紙ストローへのプラスチック包装、途上国への古着転売による現地産業の破壊、太陽光電池の廃棄物問題等内容について疑念が持たれる事業が散見される。また、環境負荷の高い事業を子会社等に切り離しクリーン企業に転身する企業も発生しており、根本的な解決を後回しにしているようにどうしても感じてしまう。カーボンニュートラル、地球温暖化の節目となる2050年に50代として生活しているであろう自身や周囲の好転のために勤務、生活ともに少しづつでも貢献していきたい。
W368	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	これまでは世界の一部地域での紛争はあっても、今回のロシアのウクライナ侵攻のような事柄は地球環境問題を考える場合に考慮していませんでした。しかし、今回の戦争は、エネルギー、社会、経済、食糧など世界的に大きな影響を与えています。今後、地球環境の変化は、これらの影響をも考え、問題解決のための対策を講じていく必要があります。
W369	田中　泰義	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境 10.その他	今年は国連人間環境会議から５０年、京都議定書の採択から２５年の節目である。本来ならば、私たちの先輩が地球規模で環境問題に目を向けた背景を知り、評価・検証していく貴重な年である。この間、地球の平均気温は上昇し、気候変動による影響は明らかになってきた。新型コロナウイルスに象徴される感染症も、生態系破壊と関係していると言われる。 残された時間は短く、本来ならば未来のための方策を真剣に考える時期なのに、ロシアによるウクライナ侵攻に向き合わなければならなくなったのはとても残念であり、悲しい。気候変動と密接に関連してきたエネルギーや食糧問題についても、事態をさらに悪化させかねない。 一方で、年金や介護など差し迫った課題への対処を優先せざるを得ない自分がいる。あらゆる社会課題を平行して解決していく重要性を痛感している。この危機を好転させるために、一人一人の良識と英知を期待し、私も努力していきたい。
W370	山村　武敏	アジア	日本	地方自治体	60代	1.気候変動	気候変動問題については、世界が真剣に取り組んでいるとは思えない。すでにヒマラヤ山脈の氷河湖は決壊し始め、一部の島国は水没し始めているが、世界は相変わらず化石燃料を使い続けている。
W371	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動	気候変動対策には具体的な施策そして実現可能な目標が必要です。パリ協定を遵守するためにさらに厳しい対策、技術開発は求められると思います。
W374	[-]	アジア	日本	企業	50代	8.ライフスタイル	ヨーロッパではエシカル消費が既に盛んで、社会課題や環境問題の解決につながる商品やサービスに対して、通常のものよりも価格が高くても、その価値を認める消費者が多いと言われています。一方日本では、それらの認知や実際の購入は若者や一部の環境意識の高い層の消費者に留まっています。直近の日本では原材料高や円安が要因の「値上げ」がほとんどですが、エシカル消費が認知されその価値を認め高い対価を払うような市場になることが、本当の意味での先進国だと思います。
W375	関口　明生	アジア	日本	大学・研究機関	30代	9.社会、経済と環境	私の国（日本）では、SDGsのような社会的課題は、多くの人が認識していても、職業ごとにイメージする性別があったり、肉食が多かったり、旅客で電車の7,8倍のコストがかかる自動車を持つことが相変わらず社会的ステータスであるように見なされたりするなど、今までの慣例が維持されて、具体的な行動が少ない可能性があるのではないかと心配しております。この一つとして、生活が豊かになるにつれて、時間的に長期で空間的に広い考え方がいずれもできなくなっている様子があるのではないかと考えます。UNESCOが掲げるESDの8つのキーコンピテンシーにも照らして、日本では、長期で広域のダイナミクスを意識するための「システム思考」が普及し、多くの人が学習できるようにするべきなのではないかと考えております。また、従来の経済や産業の規範をそのまま適用して良いか、疑わなければいけないのではないかとも、考えております。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W376	伊藤　貴文	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動	最近我が国でも、頻繁に集中豪雨の発生や、大型台風の上陸が確実に増加している。地球温暖化がその原因であることは、それなりの教育を受けて来た我々には自明であるが、それを根拠なく否定する人たちもかなりの割合でいることも事実で、危惧するところである。 CO2取引については、そんなことで本当に良いのか疑問である。むしろ、環境問題を経済活動に利用しているようで非常に不愉快である。 大国のエゴにより、根本的な対策が取れていないようで、かなり危機感を持っている。
W378	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動 6.人口 7.食糧	先進国も新興国も足並みを揃えて人口抑制・縮減を図らなければ、地球に未来はない。「持続可能な開発」という言葉は人間のご都合主義の象徴であり、「持続可能な地球」を議論しなければならない。
W379	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	30代	7.食糧	確実に足りなくなり日本もそのあおりを受ける。自給率を挙げることを言葉にするだけでなく、実行することを急がなければならない。
W380	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 7.食糧 9.社会、経済と環境	ウクライナ侵攻の影響で、安全保障リスクが高まっており、地政学的に、エネルギー、食糧の調達リスクが高いことが顕在化してきていると感じるが、どこまで本気で対応しているのかが見えないので、不安がある。このような状況で、カーボンニュートラルを本当に目指せるのか。様々なリスクを他人事のように捉えられている雰囲気が感じられ、不安でならない。
W381	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	これらの項目の全てが互いに密接に関連しているという認識が重要。その上で、有効なアクションプランを実施体制とともに構築していくべきである。
W383	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	近年、地球環境問題特に気候変動などは世界の一部の勢力によるプロパガンダであるとするメディアがある．その勢力が、環境問題を扇動する事によって莫大な利益を得るように誘導しているという内容である．そういった事は歴史の中で度々繰り返されるという事は分かるが、一般庶民には中々知らされない事が多い．１つには、環境政策の予算等カネの流れを子細に随時公表して欲しい．それにより、誰が利益を得ているのか、明るみに出る部分もあるのではないか． また、環境問題への国際的な取り組み等は様々な枠組みでなされてきている事になっているが、その改善成果はなかなか目に見えにくい．研究機関では、過去のデータからこれくらいのコストでこれくらいの環境指数改善が得られるようだ等の解析をして、政策指針になるよう出していただきたい．また、クリーンエネルギーへの転換という事は30～40年前くらいから言われているが、なかなか進んでいない．社会は、既存のエネルギー体制を壊せずにいる．そこはどうしたら良いのか．
W384	渡辺　哲	アジア	日本	その他	60代	10.その他	問3-3の記述の他に、地球環境問題に関する問題の視点と評価観点（スケール）を根底から再構築する必要があると感じている。 それくらい、新型コロナウイルス等の感染症の蔓延による影響とロシアによるウクライナへの侵略戦争は、地球的・世界的規模で影響を及ぼし、従来の対応・対策・手法では回復が難しいと思われること。（独占的な感染症ワクチン開発と接種機会の差別化は、世界的な規模の経済格差と不平等を助長し、各国の財政負担・破綻が危惧される。これに、ロシアのウクライナ侵攻が世界平和と平等のバランスを崩壊させ、格差と不平等の拡大と世界各国の財政破綻に拍車をかけることになる。環境破壊に関して「やり得」＝「既成事実」を許容しない仕組み・体制の構築が環境問題に関する新たな視点・観点（評価）となると考える。
W385	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	10.その他	すべての地球環境問題について言えることですが、まず、現実を直視することから始める必要があります。しかし、ありのままの現実を直視したときに、その状態があまりにも悲惨な場合には、人々の反応は様々に分かれてしまい、パートナーシップで物事を改善することは難しくなります。そのため、現実を直視することも大切ですが、それを解りやすく解説し、過度な不安を与えないような情報共有の方法や報道の在り方が重要なポイントになると思います。
W388	角　正明	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動	エネルギー問題に解決が重要である。
W389	中澤　隆雄	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	物質的・精神的な貧困からの脱却が第1ではないかと考えています。環境問題を考えるにしても、重要であることは感じていても、多くの人たちは日常生活を送るのに精いっぱいで、一部の人を除いて、とてもゆとりがあるようには思えません。やりがいのある人生が保証されてこそ、身の回りの環境問題等にも目が向けられていくのではないかと思います。 個人的な努力ももちろん前提ではありますが、国や地方自治体、経済団体や地域社会が本気になって、教育活動、社会活動に取り組み、地球環境問題の重要性をアピールするとともに、人々の日常生活の不安を少しでも和らげていくことが肝要ではないかと感じています。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W390	馬場　将人	アジア	日本	企業	30代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	日本は変化に鈍感で、それは高齢化とも関係が予想され、政治の高齢化や若者の参政低下も含めて問題に関係があると考える。
W392	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	6.人口 9.社会、経済と環境	日本では人口が減少し、経済規模が小さくなっていることを問題にしている。人口を増やすのではなくて、発想転換して8000万人規模の社会を目指した政策、制度設計が必要だと思う。
W393	鈴木　道彦	アジア	日本	NGO/NPO	70代以上	1.気候変動 5.水資源 6.人口 9.社会、経済と環境	世界で発生している武力による戦争、テロなどは、地球環境に対する我々の改善努力とは関係なく、地球環境を悪化させている。　武器を使う戦争をなくす努力こそが重要であり、地球環境の変化を示す項目に入れても良いのではないでしょうか。
W394	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	2.生物圏保全性(生物多様性)	日本の若い世代にはSDGsを自分ごととしてとらえる意識が高まっていると思います。この動きの中で、ほかの目標と連動して、生物多様性のために何ができるかについても、アクションの選択肢が身近なものとしてたくさん示されるようになるといいと思います。
W397	[-]	アジア	日本	地方自治体	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境 10.その他	世界の状況と同様に、本県においても平均気温の上昇が続いている状況にあり、ここ数年は記録的暖冬の翌年が記録的大雪になるなど、日常生活の中で気候変動を実感できる状況となっている。 このまま地球温暖化が進行し気候変動が大きくなった場合、これまでの気候に対応してきた防災・生活インフラや産業構造（特に農林水産業）への打撃が恒常化することが懸念されるほか、新型コロナウイルス感染症に加え、温暖化による熱帯地域の感染症や従来その地域に生存していなかった有害生物の北上なども継続的な課題になっていく可能性もある。 脱炭素社会に向かう気運が上昇している今こそ、この動きを再生可能エネルギーや森林資源の宝庫である本県の振興に結び付けていけるよう、産業振興や自然災害対策を急ぎ進めるとともに、一人ひとりの危機感・認識を高め、行動変容を促す取組が必要であると考える。
W398	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 7.食糧 9.社会、経済と環境	ロシアのの不当なウクライナ侵攻の影響で、平和維持やエネルギーや食糧危機に対する不安が増したことなどから経済への影響もかなり出ており、今年初めは好転方向にあった気候変動や生物多様性の取組などが後退している現状があり、これは今後加速される傾向が強い可能性が高いことが、現在の一番の不安条件である。
W399	ナガイ　マサハル	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球環境問題の解決に向けて、長期的な視野に立った、より統合された、包括的な政策とその実施のための制度が必要と考える。
W400	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候危機が現実の問題として迫ってきている中で、ウクライナ、シリア、パレスチナなどでの殺戮・破壊の現実を見るにつけ、地球・人類は未来に大いなる懸念を感じています。
W402	磯部　作	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	気候変動が「気候危機」と言われるまでに深刻な状態になっているため、CO_2などの温室効果ガスの発生を早急に大幅に削減していかなければならない。そのためには、CO_2の排出量の多いエネルギ転換部門や産業部門、運輸部門などで石炭火力発電所の廃止などを行い、化石燃料から自然再生可能エネルギーに転換していく必要がある。 また、重大な問題となっているプラスチックなどの海ごみ問題を解決することが重要であり、そのためには、大量生産、大量流通、大量販売、大量消費、大量廃棄の社会システムを変え、プラスチックの使用を削減するとともに、海ごみの発生抑制と回収処理の体制を構築していくことが重要である。 そして、これらを実現していくために、的確な政策や施策がなされねばならない。

Comments on Q4

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問4	ご意見
W403	今井　通子	アジア	日本	企業	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	ご存知のように近年若者も含め気候変動に対する意識は高まってきていますが、今年は大国の暴挙により避難民の大規模移動や、国際的な経済制裁による各国のエネルギー政策に変化が出はじめ、エネルギー輸送による環境汚染は否めません。一方で農作物とそれに伴うバーチャルウォーターの輸入大国である我が国では、他国が農作物の増産のために行うであろう土地利用（例えば、森林を伐採し農地を広げるなど）の恩恵を受ける事になりかねません。森林の減少は、温暖化、環境汚染、生物多様性の減少、水資源の減少と悪化に繋がりますが、食料の枯渇は人命にかかわります。従って、消費性向を正す、社会、経済と環境、政策、施策等々に留意するなどと言っていられなくなる可能性もあります。今回の暴挙によるこうした波及事態に対し、地球環境と生命体であるヒトを守るための施策として各々の専門分野の方々に早急かつ詳細に各々項目を立て、その対策を検討していただける事を祈念いたします。
W405	鶴田　由美子	アジア	日本	NGO/NPO	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	人口増加、資源枯渇、戦争多発、自然災害の増加によって、気候変動や生物多様性の損失は悪化の傾向に歯止めがかからない。ようやく一部の欧州を中心に、経済の基盤も気候変動や生物多様性の保全なしには瓦解することを危機に感じ、政策、企業経営においてもマイナスをゼロにするだけでは足りず、プラスへ回復させることを制度化基準化しつつあるが、我が国をはじめ、まだその取り組みの端緒にもつかない国が多すぎるのが現状だ。 この先の地球の生態系や自然環境の変化に適応していく能力を開発しつつ、その変化が過酷なものでなく最小限に留まるよう、誰もが生活や営みの変革を続けるしかない状況が続くだろう。この変革に対し現世代、次世代とポジティブにチャレンジし続けていくためには、温暖化と生物多様性損失の地球規模の現状とローカルな課題を把握し、今、何を優先していかなければならないのか、全世代が解決すべき社会課題として伝え、ともに変化を最小限にする活動を誘発するしかない。経済のしくみや、生産と消費の中にも、人々が意識をしなくても、地球環境への影響を好転させることに寄与する仕掛けをつくることが必要だ。 特にわが国では現状の教育カリキュラムの中では、こうした現状と課題、そしてそれが自分の将来の活路やチャンスになり得るという情報がまったくもって乏しく、関心を寄せる若い世代は少ないままだ。将来の自分の進路、職業選択、ビジネスに直接大きな影響を与えることもほとんど認識されていない。 多分野のNGO、自治体、教育機関、そして国が連携し、若い世代、現役世代に働きかけるシステムをつくることが急務だと思われる。 それは、近年実感したコロナ禍や戦争の危機と同じく、我々の生活の基盤を損なうものであり、その危機は静かにしかし着実に増大していることを、日常的に知り実感する機会を増やしていきたい。
W406	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	10.その他	地球環境問題については、とにかく人間が繁栄すれば良いという視点が多いように感じられる。本当に地球環境を守るとはどういうことか考え直すことが必要ではないだろうか。
W408	小野寺　浩	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動	気候変動の激化は、時間とともに激しくなり始めている。それとともに、高度成長期の整備されたインフラは老朽化し、その後の保守においてもすべてをカバーできていない。明らかにリスクがあると考えられている河川や浸水対策はできているが、ハザードマップで示すだけで市民自らの自己責任で何とかするしかない現状である。一方で、国や自治体が国民、市民を守るべき論調もあり、また、国民・市民もそう思い込んでいる。そのため、公的機関が気候変動によるリスク対応を具体化しにくいのではないかと危惧される。近年、JRはリスク対応に過剰なくらいの慎重さで臨まれ、利用客もその対応に慣れつつあるのは良い傾向である。安全意識が企業の取り組みにより、社会に浸透しつつあることは、良い傾向である。一方、コロナ感染症対応でも見られた通り、安全意識が低い企業も多く、社会変革のためにも、企業のリスクマネジメントへの取り組みの深化、広がりを期待したい。
W409	三橋　規宏	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動	戦後の日本のエネルギー政策は原子力と石炭の2本柱で成功したので、政府は今後もその路線が継続できるとの姿勢を変えていない。しかし福島原発事故で、地震・火山列島の日本で原子力依存はリスクが大き過ぎる。石炭は大量の温暖化ガス、ＣＯ２を排出するため、脱炭素化が求められている。太陽光や風力などの再エネ開発普及が急務なのに、その取り組みは特に欧州との比較で見劣りがする。ヒートポンプなどの温度差利用の自然エネルギーを含め、この分野へのヒト、モノ、カネの集中投資が求められる。
W410	笠井　高芳	アジア	日本	その他	70代以上		最近の気候変動の理由を科学的に明らかにするため、しっかりとした調査を世界規模で行うべきです。
W411	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 5.水資源 7.食糧 9.社会、経済と環境	今後、食糧の増産圧力が高まり、森林減少や水不足、労働条件の悪化などが懸念される。
W412	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	ロシアのウクライナ侵攻は改めて我々に、戦争が最大の環境破壊であることを想起させた。気候変動への対応を本格化させなければならないこの時期に、ウクライナで発生している軍事衝突とその波及によるエネルギーを取り巻く状況の変化は気候変動対策の遅延につながる残念な事態である。一方、昨年の気候変動条約COP26 では気候変動対策と生物多様性の保全がコインの両面のように密接に関割っていることが明確に示された。いずれも人類の生存基盤である地球の環境を維持するために必須の取組であり、今後、両者の取組がシナジーを発揮しつつ、進むことを期待したい。また、その際には、「自然に基づく解決策（Nature-based Solutions）」が積極的に各種の施策に取り入れることが必要と考える。